



大阪市民の働き方と
暮らしの多様性と
共生にかんするアンケート

自治体における無作為抽出
による市民対象調査で
SOGIをどのように扱うか

大阪市での実践を事例
とした報告会

2021年3月22日(月)
13:30~15:30予定

資料の引用について

本報告は、JSPS科研費16H03709「性的指向と性自認の人口学－日本における研究基盤の構築」の助成を受けて行った研究成果の一部である。

本資料の引用のさいは、以下の情報を含めていただきますようお願いいたします。

報告者名, 2021, 「報告タイトル」、『自治体における無作為抽出による市民対象調査でSOGIをどのように扱うか－大阪市での実践を事例とした報告会資料』JSPS科研費16H03709「性的指向と性自認の人口学－日本における研究基盤の構築」（研究代表者 国立社会保障・人口問題研究所 釜野さおり）編

皆さまへのお願い

1. マイクオフ（ミュート）、カメラオフ（ビデオの停止）
でお願いいたします



2. 撮影・録音はご遠慮ください

- 主催側では記録のために録画します

3. お名前の表示方法は自由です

4. 質問・コメントは、質問記入フォームをお使いください

- 下記リンクをzoomチャットに適宜お送りします

- <https://www.form-answer.com/applications/WKX7D>

質問を2回以上送る方へ

下記の画面で、「フォームを表示する」をクリックして、再度入力してください

エラー

すでにお申し込み頂いています。再度、お申込みいただける場合は、

[フォームを表示する](#)

ここをクリック

本日の流れ

報告タイトルをクリックすることで、そのページに飛ぶことができます。

司会進行：布施香奈・小山泰代

1. 報告会の趣旨（釜野さおり）
2. 近年の自治体による無作為抽出の市民対象SOGI関連調査の傾向（藤井ひろみ）
3. 事例としての大阪市民調査・・・分析結果の紹介
 - ① 調査の概要（釜野さおり）
 - ② SOGIの聞き方（釜野さおり・平森大規） / 答え方（千年よしみ）
 - ③ SOGIと地域（山内昌和）
（休憩）
 - ④ SOGIと学校（岩本健良）
 - ⑤ SOGIと家族づくり（藤井ひろみ・布施香奈・釜野さおり）
 - ⑥ SOGIとお金（平森大規）
4. 質疑応答（専用フォーム使用）

「SOGI人口学科研プロジェクト」



国立社会保障・人口問題研究所
National Institute of Population and Social Security Research

● 研究所の概要

● 研究事業

● スタッフ

ホーム

研究プロジェクト

性的指向と性自認の人口学 - 日本における研究基盤の構築

科研費

性的指向と性自認の人口学－日本における研究基盤の構築

- ✓ 2016～2020年度 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（一般・基盤（B） 課題番号 16H03709）
- ✓ **研究代表者**：釜野さおり（国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部 第2室長）
- ✓ **科研プロジェクトURL**
<http://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI/>
- ✓ **大阪市民調査の結果URL** <https://osaka-chosa.jp>
- ✓ **アンケート実施時のURL**(研究の背景、調査実施の経緯、目的の詳細)
<http://acv.osaka-chosa.jp/index.html>

研究メンバー（研究分担者、研究協力者含む）

調査メンバー

釜野さおり	国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部第2室長
小山泰代	国立社会保障・人口問題研究所人口構造研究部第3室長
千年よしみ	国立社会保障・人口問題研究所国際関係部第1室長
布施香奈	国立社会保障・人口問題研究所情報調査分析部主任研究官
岩本健良	金沢大学人間科学研究域人間科学系准教授
藤井ひろみ	大手前大学国際看護学部教授
山内昌和	早稲田大学 教育・総合科学学術院准教授
平森大規	ワシントン大学・大学院社会学研究科博士課程博士候補生
石田仁	明治学院大学社会学部付属研究所研究員
吉仲崇	会社員

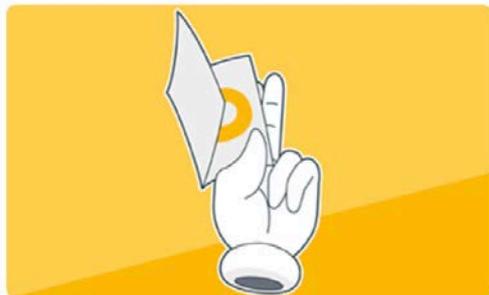
その他のメンバー：

- KHOR, Y.T. Diana（法政大学グローバル教養学部教授）
- 杉浦郁子（和光大学現代人間学部教授）
- 谷口洋幸（金沢大学国際基幹教育院准教授）
- 神谷悠介（中央大学客員研究員）
- 三部倫子（石川県立看護大学人間科学領域講師）
- KLAWITTER, Marieka（ワシントン大学公共政策学科教授）
- ROTHBLUM, Esther（サンディエゴ州立大学女性学プログラム教授）

本日の報告会の趣旨

- ✓ 大阪市民調査の特徴 ……
 - ✓ 市民を無作為に抽出
 - ✓ 意識だけでなく、生活の実態をたずねた
 - ✓ 回答者の性的指向・性自認のあり方（SOGI）をたずねた
 - ✓ これまでの自治体調査にはなかった形
- ✓ SOGIを扱う、これまでの自治体調査の現状を踏まえた上で、今後の調査・分析のあり方を探る
 - ✓ 大阪市民調査のデータを使ったいくつかの分析を紹介
 - ✓ 可能性：こういうデータがあると、どんな分析ができるのか
 - ✓ 課題：どんな課題が残されているのか

回答にご協力くださった方々にお礼を申し上げます



あなたが選ばれたのは、完全に偶然です



わたしには関係ない調査なのでは？

このアンケートは、「無作為調査」です。わたしたちが決めたこと
は、大阪市民から15,000名を無作為に抽出し、調査を最終的に実施します。



わたしの性にかんする情報が知られている…？

このアンケートが来たからといって、「自分の性にかんすることがあらかじめ何か知られているのではないか」と心配する必要はまったくありません。仮にあなたが性的マイノリティ（LGBT）であったとしても、アンケートにそう答えることで初めて性的マイノリテ

実施時のHP
「あなたに
お願いする理由」
より

を見たとき、あなたは「これは性的マイノリティに関する調査では？」と思われるかもしれません。性的マイノリティ（LGBT）に関する調査です。



あなたが選ばれたのは、市民の代表だからです

この項目の最初に「あなたが選ばれたのは、完全に偶然です」と述べました。ですが誰でもよく、たとえば家族やほかの人に渡してしまってもいいわけではありません。今回、あなたが大阪市の全人口・約270万人の代表として選ばれているからです。

近年の自治体による 無作為抽出の市民対象 SOGI関連調査の傾向

藤井 ひろみ（大手前大学国際看護学部）

名古屋市

タイトル：性的少数者（セクシュアルマイノリティ）など性別にかかわる市民意識調査

実施（結果公開）部署：総務局総合調整部男女平等参画推進室

実施時期：2018年（調査期間：2週間）

対象：市内居住満18歳以上

方法：郵送（配布・回収）

標本数：10,000人

回収率：47.4% 有効回答率：46.6%

「性的少数者の当事者ですか」いいえ・はい1.6%・無回答3.2%

「はい」の内訳：L・G・B・T・X・Q・わからない決めたくない・その他
意識し始めた時期、うちけた人数、相手、悩みや困りごと
意識や認知度とのクロス（結果は公表されていない）

<https://www.city.nagoya.jp/sportsshimin/cmsfiles/contents/0000112/112536/30hokokusho.pdf>

長野市

タイトル：性的少数者（セクシュアルマイノリティ）に関する意識調査

実施（結果公開）部署：長野市

実施時期：2018年（調査期間：17日間）

「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」と同時実施

対象：市内在住20歳以上75歳未満

方法：郵送（配布・回収）

標本数：2,000人

回収率：38.3%

あなたの周りに性的少数者はいますか「あなた自身」：4.5%（3人）

宮崎県

タイトル：人権に関する県民意識調査

実施（結果公開）部署：総合政策部人権同和対策課

実施時期：2018年（調査期間：1か月間）

対象：県内在住18歳以上

方法：郵送（配布）・郵送とweb（回収）

標本数：3,000人（男性1,412人、女性1,588人）

回収率：36.4%（郵送979通・web114通）

性的マイノリティの人権（同性愛者や両性愛者など性的指向に関し／トランスジェンダーなど性自認に関し、人権上問題があると思うもの）

https://www.pref.miyazaki.lg.jp/jinkendowataisaku/kurashi/jinken/documents/42809_20190308202406-1.pdf

岡山市

タイトル：性的マイノリティに関する市民意識調査
実施（結果公開）部署：市民協働局市民協働部人権推進課
実施時期：2019年（調査期間：1か月間）
対象：18歳以上の男女
方法：郵送（配布・回収）
標本数：3,000人
回収率：36.3%

「あなたは性的マイノリティの当事者だと思いますか？」 はい1.1%
はいの内訳：
「好きになる性が少数派」 58.3%
「『こころ』と『からだ』の性が一致していないことがある」 41.7%
「その他の点で少数派」 0%

埼玉県

タイトル：多様性を尊重する 共生社会づくりに関する調査

実施（結果公開） 部署：県民生活部人権推進課

実施時期：2020年（調査期間：23日間）

対象：埼玉県内に住む満18歳以上64歳以下の方

方法：郵送（配布）・郵送とweb（回収）

標本数：15,000人

回収率：37.6%（郵送26.7%・web10.9%）

性的マイノリティ 3.3%

出生時の性別「男性」または「女性」と回答もしくは無回答で、性別についての違和感が「別の性別」または「違和感あり」と回答。性的指向が「同性愛者」「両性愛者」「無性愛者」のいずれかか、「決めたくない・決めていない」を回答し「異性愛者ではなく、クイア、パンセクシャルなど別のアイデンティティを持っている」または「まだ決めていない等」のいずれかを回答。

<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/183194/lgbtqchousahoukokusho.pdf>

沖縄県

タイトル：男女共同参画社会づくりに関する県民意識調査

実施（結果公開）部署：子ども生活福祉部女性力・平和推進課

実施時期：2020年（調査期間：3週間）

対象：沖縄県各市町村から無作為に抽出した満20歳以上の男女

方法：郵送（配布）・郵送とweb（回収）

標本数：7,500人

回収率：22.9%

自分の体の性・心の性、または性的指向に「悩んだことがある」との回答は4.6%
（女性5.2%、男性3.9%）。

ホーム

調査対象の方へ

詳しく知りたい方へ

Q&A

個人情報の取り扱い

お問

どんなアンケート調査？

アンケートが届いてから返送までの流れ

スケジュール

記入ミスをしたときは

正しく集計され



大 阪 市 民 の 働 き 方 と
暮 ら し の 多 様 性 と
共 生 に か ん づ る ア ン ケ ー ト

<http://acv.osaka-chosa.jp/index.html>

大阪市民調査を例に： 分析結果の紹介

大阪市民の働き方と
暮らしの多様性と
共生にかんするアンケート

調査の概要

釜野さおり
(国立社会保障・
人口問題研究所)

大阪市民調査の概要(1)

- **調査期間**：2019年1月16日（発送）～28日（督促はがきで2月4日まで延長、3月7日到着分まで集計）
- **調査対象**：大阪市在住の18～59歳の15,000人（2018年10月1日時点の住民基本台帳から無作為抽出）
- **配布と回収方法**：郵送配布・郵送回収（ウェブ回答併用）無記名・自記式
- **調査票**：55問、14ページ
- **使用言語**：日本語（韓国語、繁体、簡体、ベトナム語、英語、ポルトガル語の案内を配布し、ウェブ上で質問文および選択肢を各言語で表示）
- **研究倫理審査**：国立社会保障・人口問題研究所の研究倫理審査委員会（承認番号 IPSS-IBRA #18003）

大阪市民調査の概要(2)

- **調査主体**：働き方と暮らしの多様性と共生チーム
 - **性的指向と性自認の人口学-日本における研究基盤の構築**
課題番号 16H03709 研究代表者 国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究部 第2室長 釜野さおり
- **協力**：大阪市（対象者抽出、宛名の印字、発送）
- **業務委託**：一般社団法人 新情報センター（書類準備、回収、入力）
- **回収状況**：有効回答数・有効回収率：4285人、28.6%
 - **出生時性別**：女 2,517 (58.7%)、男 1,754 (40.9%)、無回答 14 (0.3%)
 - **年齢**：20代以下 678 (15.8%)、30代 1,021 (23.8%)、40代1,229 (28.7%)、50代 1,274 (29.7%)、無回答 83 (1.9%)

調査書類一式



アンケート用紙



大阪市からのお願い



アンケートご協力をお願い



インターネット回答のご案内



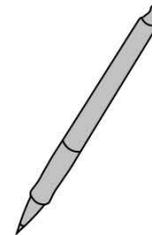
ご説明 (Q&A)



インターネット回答用IDとPW



外国語のご案内

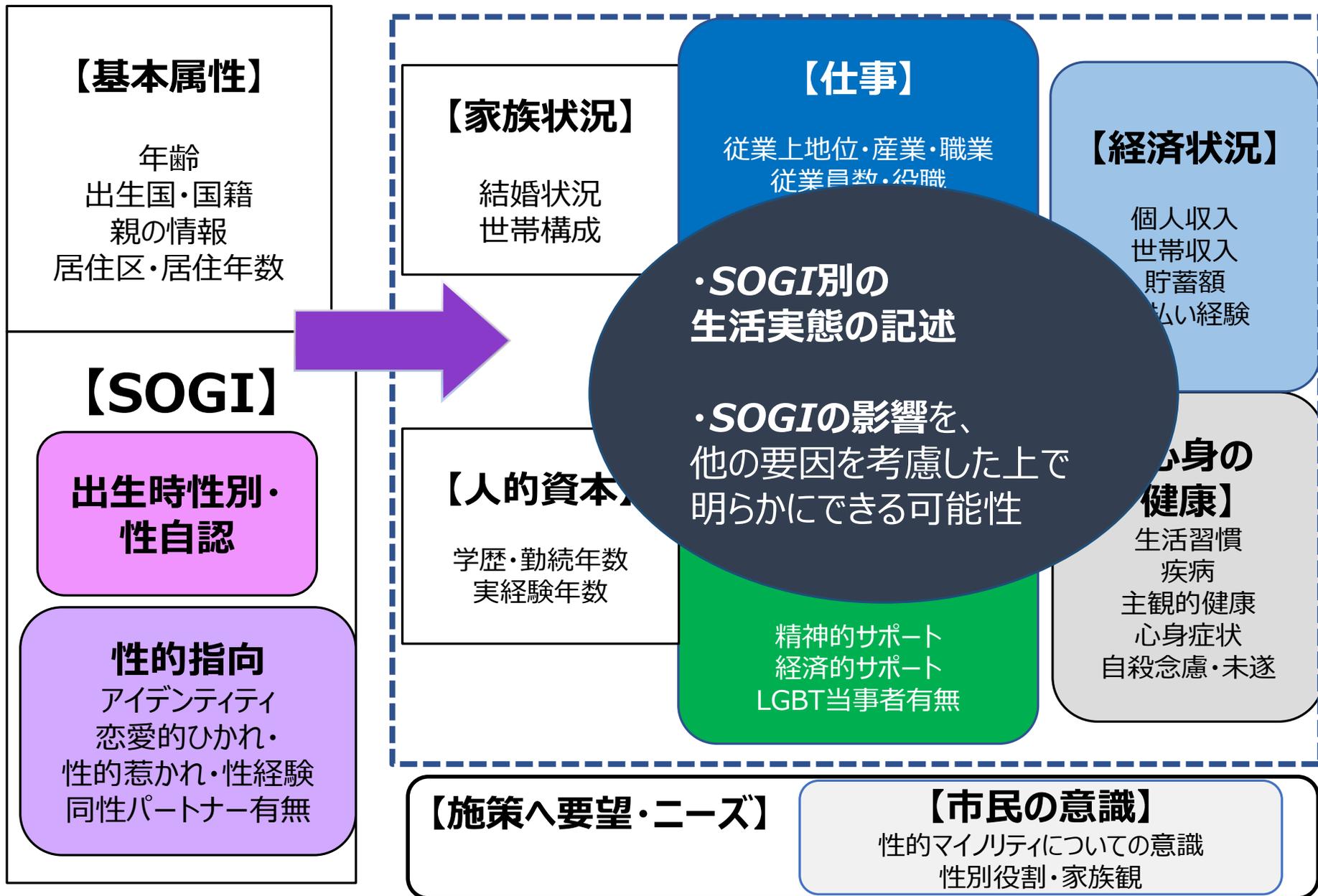


記入用ボールペン



返信用封筒

「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」の項目



なぜこの調査を実施したのか

これまでの、SOGIを扱う自治体調査

✓ **市民意識調査**（無作為抽出、市民モニター）

---性的マイノリティに対する意識、施策や取り組みの必要性を調査

* 回答者のSOGIがわからない、生活の実態がわからない

✓ **性的マイノリティ当事者を主な対象とした調査**（SNS等で募集）

---性的マイノリティの悩み、困りごと、経験、ニーズを把握 これは重要だが、

* 当事者以外との統計的比較ができない

* 当事者が「困難」と認識できること以外のことわからない

認識されていなくても、性的マイノリティに影響を与えているかもしれないこと・・・は明らかにできない（ニーズ認識の困難）

→ どうしたらいいか？ : 1つの方法 -- **対象者を無作為抽出し、回答者のSOGIおよび生活実態をたずねる調査**

メカニズムは明らかにできないが、結果として表れるだろう、生活実態（経済や健康を含む）をみることができる

大阪市民調査の特徴

研究者主体

- 調査内容の自由度
- 試験的な試み・冒険
- 学術的分析が可能

市の協力

- 対象者の抽出が容易
 - 学術調査での住基台帳の閲覧は認められているが、自治体の承認が必要
 - 閲覧費用
- 市民からの信頼を得やすい

調査方法・内容

- 無作為抽出調査
- 回答者のSOGIおよび実態把握
- 性的指向の複数の側面を把握

→設計上、

- 当事者・非当事者の比較が可能
- SOGIと生活実態の関連分析が可能
- 母集団の正確な縮図を示す結果の提示が可能

回答謝礼が渡せない（多くの調査では最低500円の金券）、市の調査としての広報や回答呼びかけができない、などの制約もあり

自治体における無作為抽出による市民対象調査でSOGIをどのように扱うか：
大阪市での実践を事例とした報告会 2021年3月22日(月)13:30～15:30

SOGIの聞き方・答え方

釜野さおり (国立社会保障・
人口問題研究所) ・
平森大規 (ワシントン大学大学院)

この資料には、時間の関係で報告会当日は使用しなかったスライドも含まれます。

今日の報告内容の詳細については、以下をご覧ください（すべてこのHPからアクセス可能です）：

<http://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI/index.asp>

* **性的指向と性自認のあり方を社会調査でいかに捉えるか**：『人口問題研究』76巻4号（2020年12月刊）Asking about Sexual Orientation and Gender Identity in Social Surveys in Japan : Findings from the Osaka City Residents' Survey and Related Preparatory Studies (HIRAMORI Daiki and KAMANO Saori) → **77巻1号に、翻訳掲載**

<http://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/data/pdf/21770104.pdf>

* **性的指向における「決めたくない・決めていない」の回答を探るー性的指向・性自認に関する設問の改善に向けた試験的調査」の結果よりー**

http://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI/20200701_Report_on_Uncided.pdf

* **性的指向の複数の指標の関連性**： Hiramori, Daiki, and Saori Kamano. 2020. "Understanding Sexual Orientation Identity, Sexual/romantic Attraction, and Sexual Behavior Beyond Western Societies: The Case of Japan." SocArXiv. March 13. doi:10.31235/osf.io/ds8at. (<https://osf.io/preprints/socarxiv/ds8at/>)

報告の流れ

0. (結論の先取り) 推奨するSOGI設問の紹介
1. 先行研究 (SOGI設問の検討) (報告会では省略)
2. 大阪市民調査に向けた試験的調査と結果
3. 推奨SOGI設問を用いた、大阪市民調査の結果
 - 「決めたくない・決めていない」選択者の扱い (モニタ調査)
 - 性的指向の複数の側面を扱ったことで可能となる分析
4. 考察・残された課題

(結論の先取り) 推奨する設問 性的指向

問 46 次の中で、あなたにもっとも近いと思うものに○をつけてください。(○は1つ)

- 1 異性愛者、すなわちゲイ・レズビアン等ではない [異性のみに性愛感情を抱く人]
- 2 ゲイ・レズビアン・同性愛者 [同性のみに性愛感情を抱く人]
- 3 バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも性愛感情を抱く人]
- 4 アセクシュアル・無性愛者 [誰に対しても性愛感情を抱かない人]
- 5 決めたくない・決めていない
- 6 質問の意味がわからない

*可能なら、以下も含める：

(1) **決めたくない・決めていない、を選んだ理由**の問い

(2) **これまでの、および 最近5年間の**

①**恋愛的惹かれの相手**

②**性的惹かれの相手**

③**セックスの相手** の性別の問い

(複数の側面から捉えておく)

性的指向の要素（恋愛的惹かれ・性的惹かれ・性経験）を
たずねる推奨設問：例－恋愛的惹かれ

(1) あなたが恋愛感情を抱く相手

(ア) これまで (○は1つ)

- 1 男女どちらにも恋愛感情を抱いたことがない
- 2 男性のみ
- 3 ほとんどが男性
- 4 男性と女性同じくらい
- 5 ほとんどが女性
- 6 女性のみ

(イ) 最近の5年間

- 1 男女どちらにも恋愛感
- 2 男性のみ
- 3 ほとんどが男性
- 4 男性と女性同じくらい
- 5 ほとんどが女性
- 6 女性のみ

(結論の先取り) 推奨する設問 性自認のあり方

- ・ 出生時に割り当てられた性別
- ・ 今の性別は、出生時の性別と同じか
- ・ 今の性自認 (3ステップ方式を推奨)

問 44 あなたの性別に○をつけてください。[出生時の戸籍・出生届の性別](○は1つ)

- 1 男 2 女

※「出生時」とは、生まれたときにもっとも近い時点のことをさします。

問 45 あなたは今のご自分の性別を、出生時の性別(上で○をつけたもの)と同じだととらえていますか。左側で2や3に○をした方は、今の認識をお答えください。

(○はいくつでも)

- 1 出生時の性別と同じ
2 別の性別だととらえている
3 違和感がある



今の認識にもっとも近い性別(○は1つ)

- 1 男 3 その他
2 女 [具体的に:]

* 可能なら、「今の認識」の選択肢に以下を含める(2020年埼玉県民調査で採用) :
男性、女性、男性・女性のどちらでもある、男性・女性の間である、
男性・女性のどちらでもない、自分の性別が揺れ動いている、その他

先行研究

性的指向アイデンティティの設問の検討-1

フォーカス・グループ・ディスカッション、インタビュー調査、パイロット調査にもとづく知見（米国）

- 「性的指向」「アイデンティティ」という言葉を質問で用いない
- 選択肢の定義や説明は入れない
- 「その他」や「わからない」は、できるだけ使わない
 - これらを選ぶのは非異性愛者とは限らない
 - 選択肢と異なるアイデンティティを持っている非異性愛者
 - クエスチョニング、クィアの回答者
 - 質問の意味がわからない異性愛者

先行研究

性的指向アイデンティティをたずねる設問の検討-2

- 「異性愛者」の選択肢に「**ストレート**」を追加
 - 日常的に使われている、わかりやすい言い回し
- 「異性愛者」の選択肢に、**すなわちレズビアン・ゲイではない**という表現を追加
 - 異性愛者は、自分の性的指向をセクシュアル・マイノリティから距離をとることで理解することが多いため（自分はゲイではない、私は普通）。
 - 「異性愛者」という言葉を知らなくても、その選択肢を選ぶようにする。

※ 「異性愛者問題」：

異性愛者に「異性愛者」と答えてもらうのが難しい

- 異性愛者であるにもかかわらず、非異性愛者に分類されてしまう誤り → 非異性愛者割合の過大推定の問題にも注意

先行研究 性自認のあり方をたずねる設問の検討-1

- 1問方式：
 - 男、女、その他
 - 男、女、トランスジェンダー
- 2ステップ方式：
 - 出生時に割り当てられた性別
(届出された性別) sex
 - 現在、自認する性別 gender
- 多段ステップ方式
 - さらに、性別移行の意思や経験
- アイデンティティを直接たずねる方式：
 - トランスジェンダーか否か
 - さまざまなカテゴリーをリストし、複数選択 (トランス女性、トランス男性、ノンバイナリー, など)

先行研究

性自認のあり方をたずねる設問の検討-2

- 米国の研究で推奨された設問：**2ステップ方式**

(1) 出生時に割り当てられた性別（男性、女性）

(2) 現在の性自認（男性、女性、その他）

トランスジェンダーのアイデンティティをたずねる項目より、よいとされた理由：

・「トランスジェンダー」というアイデンティティを一般人口向けの調査で聞くのは困難であろうという知見が得られたため

大阪市民調査に向けた、SOGI設問の試験的調査

目的：当事者が不快なおもいをせず回答でき、非当事者にも理解できる設問が理想

同じことをたずねる複数の項目を含む調査票に回答を依頼し、その後、各項目についての意見を得る

方法：

- フォーカス・グループ・ディスカッション
 - 会場で試験的調査票に記入してもらい、その後、モデレーターが質問しながらディスカッション
 - 2017年：関西レインボーフェスタ！会場（5組、合計21人）
 - 2017年11月-12月：「当事者グループ」1組、「非当事者グループ」3組
- メール調査（非当事者 20人）
 - 設問と設問への意見をたずねた調査票を送付し、回答後返送

性的指向アイデンティティの設問候補

問 20 次の中で、あなたにもっとも近いと思うものに☑をつけてください。（☑は1つ）

1. ゲイ・レズビアン・同性愛者
2. 異性愛者、すなわちゲイ・レズビアンではない
3. バイセクシュアル・両性愛者
4. アセクシュアル・無性愛者
5. 決めたくない・決めていない
6. 質問の意味がわからない

バリエーション：

- 選択肢の順番（異性愛者が先か、ゲイ・レズビアンが先か）
- 選択肢の定義・説明をいれるか
- 「すなわちゲイ・レズビアンではない」をいれるか

結果と結論：性的指向アイデンティティ

1. 性的指向アイデンティティの各選択肢に定義を含める
2. 「その他」に該当する選択肢は、異性愛者向けと、非異性愛者向けに、それぞれ設ける
3. 異性愛者の選択肢に「すなわちゲイ・レズビアン等ではない」という文言を入れる

ないとわからない人がいるだろうから、用語の説明はあった方がよいと思う（両性愛者）

「決めたくない・決めていない」「質問の意味がわからない」があるので、「その他」はいらないと思う（異性愛者）

「ゲイ・レズビアンではない」という表現は、否定されたような感じがしなくもないが、強い反感はないと思う（両性愛者）

自分としてはわかりやすかったが、当事者は差別的と思うのでは。（異性愛者）

結果と結論：性的指向アイデンティティ

4. 「異性愛者」を最初の選択肢とする
5. 「好きになる性別」という文言を性的指向をとらえる際に使用しない

「好きになる」は必ずしも性愛を伴わないものを含む気がする。
(異性愛者)

一般層に（調査を）やるなら「異性愛」が一番先に来る方がよいのでは。「ゲイ・レズビアン」が先に来るとマイノリティのみに向けた調査のように見えるかもしれない。（異性愛者）

「好きになる」だとかなり意味が広くなりすぎてしまう。（両性愛者）

性自認のあり方をたずねる設問候補-1

2ステップ方式

問 12 あなたの性別に☑をつけてください。〔出生時の性別〕（☑は1つ）

1. 男 2. 女

出生時に割り当てられた性別

問 13 出生時の性別にかかわらず、ご自身が現在認識している性別にもっとも近いものに☑をつけてください。（☑は1つ）

1. 男 2. 女 3. その他（具体的

現在、自認する性別

3ステップ方式：自認が出生時性別と同じかをたずねる問を追加

問 15 あなたは、今のご自分の性別を、出生時の性別と同じだととらえていますか。それとも別の性別だととらえていたり、違和感があったりしますか。（☑は1つ）

1. 出生時の性別と同じ 2. 別の性別だととらえている 3. 違和感がある



性自認のあり方をたずねる項目候補-2

アイデンティティを直接たずねる方式

問 17 次の中で、あなた自身にあてはまると思うものすべてに☑をつけてください。

(☑はいくつでも)

1. <input type="checkbox"/> トランスジェンダー	6. <input type="checkbox"/> FtX	11. <input type="checkbox"/> 不定性
2. <input type="checkbox"/> 性同一性障害	7. <input type="checkbox"/> MtX	12. <input type="checkbox"/> インターセックス
3. <input type="checkbox"/> X ジェンダー	8. <input type="checkbox"/> 中性	13. <input type="checkbox"/> DSDs
4. <input type="checkbox"/> FtM	9. <input type="checkbox"/> 両性	14. <input type="checkbox"/> この中にあてはまる ものはない
5. <input type="checkbox"/> MtF	10. <input type="checkbox"/> 無性	

結果・結論：性自認のあり方の設問

1. 出生時に割り当てられた性別、性自認に加え、出生時の性別と同じか、をたずねる3ステップ方式がよい

3ステップ方式の方がより具体的なので、時間をかけて考えすぎずに3つの質問に答えられる（シスジェンダー）

2. 性別のさまざまなカテゴリから、あてはまる選択肢を複数選ぶ形の設問は使用しない

性自認のことなのか性的指向の質問なのかがよくわからなかった。バイセクシュアルなので「両性」と答えてしまった。（シスジェンダー）

3. 男性カテゴリを、女性カテゴリよりも、前に表示

わからない言葉ばかり。（シスジェンダー）

逆だと間違ってしまう可能性大。（シスジェンダー）

大阪市民調査で使ったSOGI設問

性的指向の
自認（アイデン
ティティ）

問 46 次の中で、あなたにもっとも近いと思うものに○をつけてください。(○は1つ)

- 1 異性愛者、すなわちゲイ・レズビアン等ではない [異性のみに性愛感情を抱く人]
- 2 ゲイ・レズビアン・同性愛者 [同性のみに性愛感情を抱く人]
- 3 バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも性愛感情を抱く人]
- 4 アセクシュアル・無性愛者 [誰に対しても性愛感情を抱かない人]
- 5 決めたくない・決めていない
- 6 質問の意味がわからない

問 44 あなたの性別に○をつけてください。[出生時の戸籍・出生届の性別](○は1つ)

- 1 男
- 2 女

※「出生時」とは、生まれたときにもっとも近い時点のことをさします。

性自認の
あり方

問 45 あなたは今のご自分の性別を、出生時の性別(上で○をつけたもの)と同じだととらえていますか。左側で2や3に○をした方は、今の認識をお答えください。

(○はいくつでも)

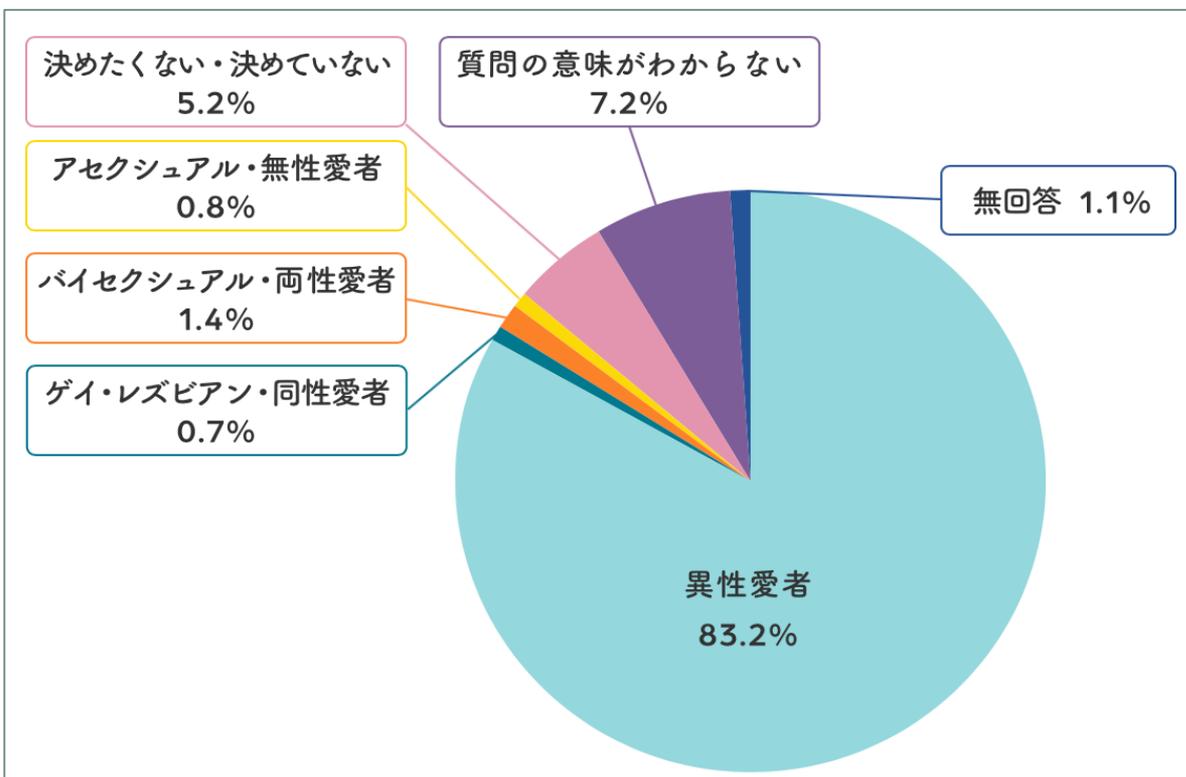
- 1 出生時の性別と同じ
- 2 別の性別だととらえている
- 3 違和感がある

今の認識にもっとも近い性別(○は1つ)

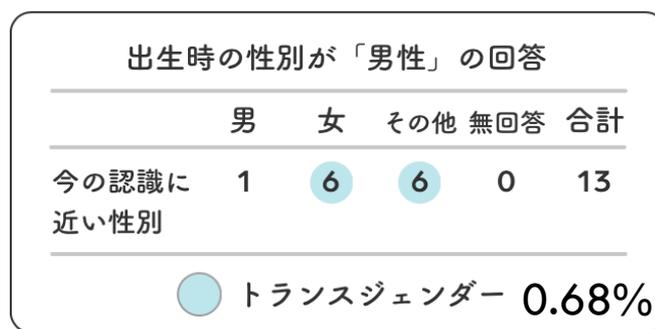
- 1 男
- 2 女
- 3 その他 [具体的に:]

大阪市民調査で、推奨する設問を用いた結果・・・ SOGI別の人口割合

〈性的指向アイデンティティ〉



〈性自認のあり方〉



回答者数 1,754人



回答者数 2,517人

5.2%を占めた「決めたくない・決めていない」の回答の意味を探る追加調査

2020年3月、モニタ型ウェブ調査を実施

- ・対象：インターネット調査会社にモニタ登録している、全国の18～59歳 有効回答数 2394
- ・「決めたくない・決めていない」を選んだ人に、その理由をたずねた
 - その結果、その一部（22～54%）には、異性愛的な人が含まれている可能性

注：大阪市民調査の結果ではありません。
別途行った、インターネットモニタ調査の結果です。

モニタ型ウェブ調査で「決めたくない・決めていない」
選択者(159人)に、それを選んだ理由をたずねた

- 質問の意味や用語がわからなかった **18%**
- 間違えて答え、再質問で、異性愛者 を選択 **3%**
- 間違えて答え、再質問で、質問がわからなかった を選択 **1%**

- 「「異性愛者」、「同性愛者」、「両性愛者」、「無性愛者」といったラベルをつけていない・つけたくない、分類しない・したくない」 回答した人 (全体の52%) のうち
 - 性自認が出生時性別と同じで、〈恋愛感情を抱く相手〉〈性的に惹かれる相手〉〈セックスをする相手〉のすべてが、異性のみ：**32%** → 「性的マイノリティ」と扱うか？

注：大阪市民調査の結果ではありません。
別途行った、インターネットモニタ調査の結果です。

モニタ型ウェブ調査で「決めたくない・決めていない」 選択者に、それを選んだ理由をたずねた

モニタ型ウェブ調査では、異性愛的な回答をした人が
2割から5割いた：：：

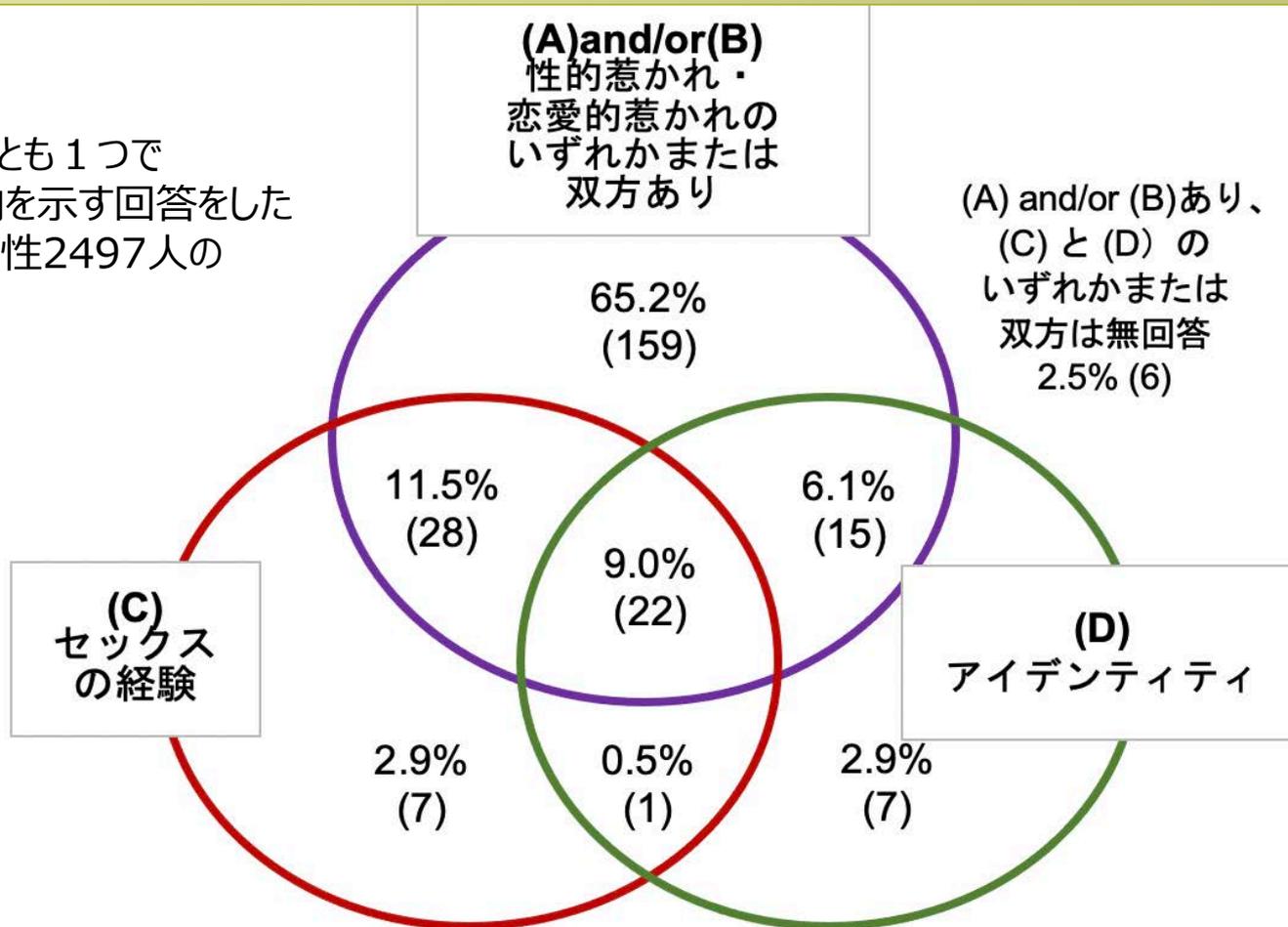
- ・「決めたくない・決めていない」の回答を、
全て「性的マイノリティ」とみなすと、その人口を過大推定することになる
- ・一方で、全て除外すると過小推定することになる

→正解はないが、曖昧さを認識し、結果を出す際は、
どう扱ったかを明確にすることが必要

- ・決めたくない・決めていないを選んだ理由をたずね
る設問や、性的指向の複数の側面の問いを含めておくと、
検討の参考になる

性的指向を複数の側面から捉えた結果 同性愛的指向の要素間の関連（シス女性）

4側面の少なくとも1つで
同性愛的指向を示す回答をした
244人(シス女性2497人の
9.8%)の内訳



まとめと考察

- 推奨するSOGI設問を提示した
- 性的指向のあり方が複雑で多面的であることを定量的に示した
 - 「異性愛者」、「同性愛者」、「両性愛者」といった形で必ずしも厳格に分かれている・分けられるものではない
 - ただし、これは、個々人のSOGIを調査で把握し、性的指向別、性自認のあり方別の分析を行うことを、否定するものではない。また、無意味だ、という事にもならない、と考える

なぜ？

- 「リアル」（現実）なものとして人々の生活に影響を与えているSOGIによる、格差・不平等を記述することが必要
- 同時に各カテゴリーの詳細に目を配り、SOGIの分類がいかに社会的に構築されているかの過程を批判的に考察することが重要

残された課題

- 「異性愛者問題」→多くが異性愛者というアイデンティティを持たない→考えたことがない、という選択肢を検討
- 性自認のあり方についても、複数の側面から検討
 - 一般向け調査で「トランスジェンダー」のアイデンティティを直接たずねる？
 - 性的指向の検討の際、シスジェンダー前提にならない方法でどうとらえるかを、研究する
- 大都市以外や、異なる対象年齢でも、同じ設問で良いかの検討
 - 小さな自治体や、全国規模でも挑戦したい
 - 18歳未満や、60歳以上では、どのような設問が適切かの検討
- 「性的マイノリティ」の中での多様なあり方や異なる経験を捉えるには、さらに大規模な調査が必要
- 自治体調査・国の調査にSOGI設問を含める意義の理解を促す
- 現時点で、推奨される設問も、今後変わる可能性がある→定期的に、試験的調査と、本番調査（無作為抽出）をおこなって改善していく必要

参考文献

Balarajan, Gray, & Mitchell. (2011). *Monitoring equality: Developing a gender identity question*. Manchester: Equality and Human Rights Commission (EHRC).
https://www.equalityhumanrights.com/sites/default/files/rr75_final.pdf

Federal Committee on Statistical Methodology. (2018). "Measuring Sexual Orientation and Gender Identity Research Group." <https://nces.gov/FCSM/SOGI.asp>

Gender Identity in U.S. Surveillance (GENIUSS) Group. (2014). *Best Practices for Asking Questions to Identify Transgender and Other Gender Minority Respondents on Population-Based Surveys*. Los Angeles, CA: The Williams Institute.
<https://williamsinstitute.law.ucla.edu/wp-content/uploads/geniuss-report-sep-2014.pdf>

Hiramori, Daiki, and Saori Kamano. 2020. "Understanding Sexual Orientation Identity, Sexual/romantic Attraction, and Sexual Behavior Beyond Western Societies: The Case of Japan." SocArXiv. March 13. doi:10.31235/osf.io/ds8at. (<https://osf.io/preprints/socarxiv/ds8at/>)

HIRAMORI Daiki and KAMANO Saori. 2020. "Asking about Sexual Orientation and Gender Identity in Social Surveys in Japan : Findings from the Osaka City Residents' Survey and Related Preparatory Studies" 『人口問題研究』第76号第4巻, pp.443-466. (『人口問題研究』77巻1号に、日本語訳掲載 : <http://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/data/pdf/21770104.pdf>)

Sexual Minority Assessment Research Team (SMART). (2009). *Best Practices for Asking Questions about Sexual Orientation on Surveys*. Los Angeles, CA: The Williams Institute.
<https://williamsinstitute.law.ucla.edu/wp-content/uploads/SMART-FINAL-Nov-2009.pdf>

釜野さおり他. 2020. 性的指向における「決めたくない・決めていない」の回答を探るー性的指向・性自認に関する設問の改善に向けた試験的調査」の結果よりー
http://www.ipss.go.jp/projects/j/SOGI/20200701_Report_on_Undecided.pdf

SOGIの聞き方・答え方

- 大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんする

アンケート調査から -

国立社会保障・人口問題研究所

国際関係部

千年よしみ



目的

- 以下の項目について、郵送回答とウェブ回答との比較
 - (1) 回答率
 - (2) 回答者の特徴
 - (3) 項目無回答率
 - (4) センシティブな質問に対する回答の分布
 - ①収入・家計、②いじめられた経験、③学歴、④SOGIに関する意識、⑤回答者自身のSOGI

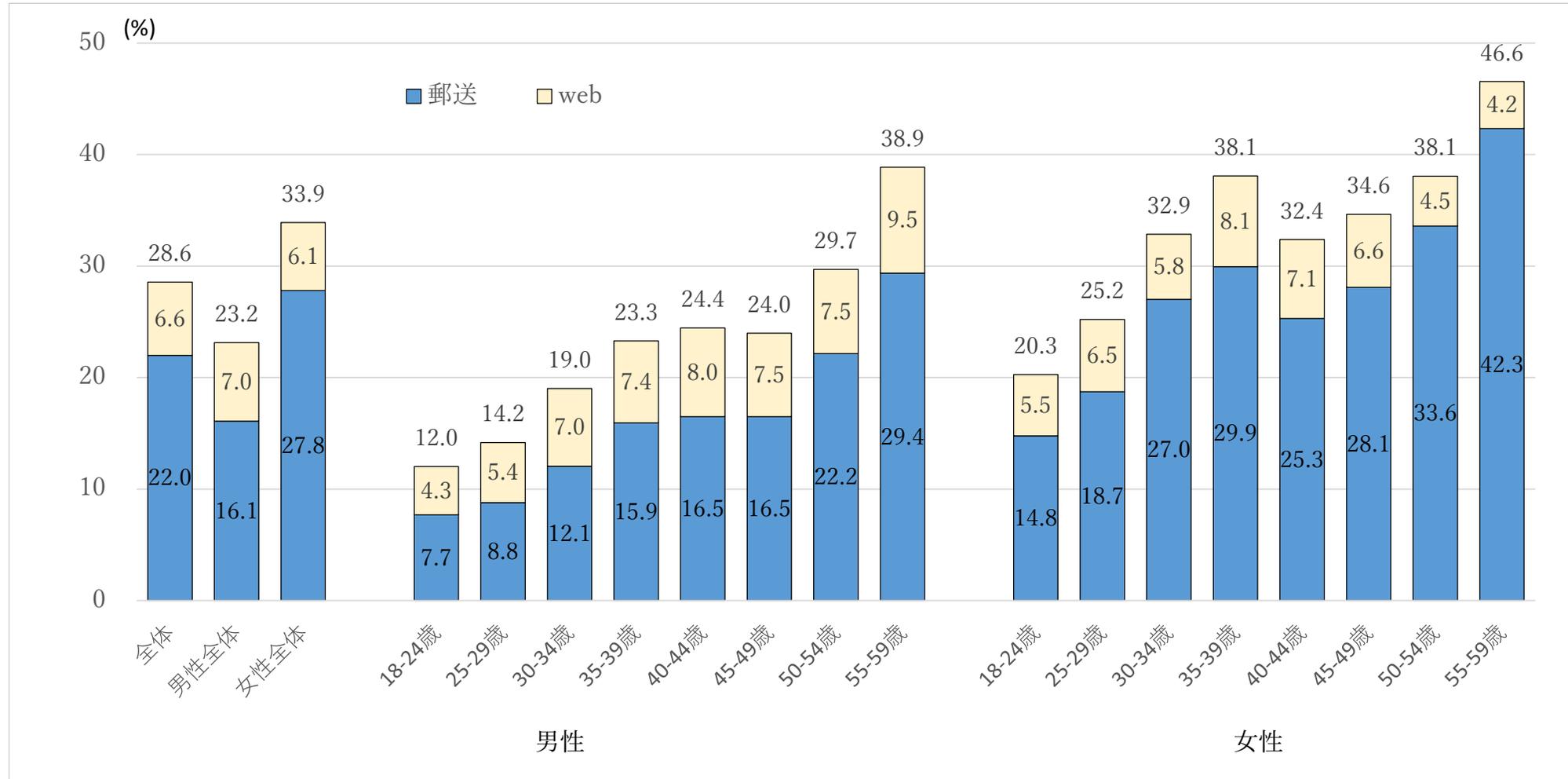
背景

- ・ウェブを用いた調査への注目
 - 背景：回収率の低下
 - 高い利便性：エラーやコストの削減、集計時間の短縮、調査票設計の柔軟性
 - 「従来型社会調査では、質問することが困難だったセンシティブな質問（精神疾患や性的指向など）について、ウェブ調査では知見を得ることが可能であり、この利点を積極的に活用すべき」（日本学術会議社会学委員会 Web調査の課題に関する検討分科会 2020）
 - これまでの研究からは、センシティブな設問（性行動、違法な薬物の使用）や、社会的望ましさに関わるような設問で、**自記式か他記式か**、の違いが大きく回答に影響

センシティブな設問項目

項目	設問	設問内容	設問	項目	設問	設問内容	設問
	問38	昨年1年間の世帯収入	昨年1年間にあなたのお宅（世帯）では、全体でどれくらいの収入（税込）がありましたか。生計を共にしている方々の分も合わせ、 <u>すべての収入</u> （年金、給付金、家賃収入、配当金、仕送りなどを含む）についてお答えください（○は1つ）	S O G I 意 識	問43	同僚や家族に同性愛者、性別を変えた人がいたらどう思うか	以下の人が同性愛者や性別を変えた人だったらあなたはどのように思いますか。(1)～(6)のそれぞれについて、あなたのお気持ちやお考えにもっとも近いものを1,2,3,4の中から選んで○をつけてください。 以下の人が 同性愛者 だったら・・・ (1) 職場の同僚 (2) 自分の子ども (3) 仲の良い友人 以下の人が 性別を変えた人 だったら・・・ (1) 職場の同僚 (2) 自分の子ども (3) 仲の良い友人
	問39	世帯の貯蓄額	あなたのお宅（世帯）の預貯金等（貯蓄）の総額はどれくらいですか。もっとも近いものに○をつけてください。（○は1つ）				
	問40	電気・ガス料金の未払い等	あなたのお宅（世帯）では、 <u>過去1年間の間に</u> 、経済的な理由で次のようなことがありましたか。それぞれについて、あてはまるものに1つ○をつけてください。 (1) 電気・ガス料金の未払い (2) 家賃の滞納 (3) 住宅ローンの滞納 (4) その他の債務不履行				
い じ め ら れ た 経 験	問21	小学校から高校時代のいじめられた経験	小学校から高校時代のあいだに、次の(1)から(6)のようなことはありましたか。(ア)と(イ)のそれぞれについて、「ある」、「ない」のどちらかに○をつけてください。 小・中学校や高校での友人や同級生による・・・ (1) 不快な冗談、からかい (2) 暴力的行為 (3) 「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」といったことにかかわる、不快な冗談、からかい (4) 「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」といったことでふられる、暴力的な行為 (5) 民族、人種、国籍などにかかわる不快な冗談、からかい (6) 民族、人種、国籍などに関してふられる暴力的行為	回 答 者 自 身 の S O G I	問46	性的指向	次の中で、あなたにもっとも近いと思うものに○をつけてください。（○は1つ） 1 異性愛者、すなわち ゲイ・レズビアン等ではない [異性のみに恋愛感情を抱く人] 2 ゲイ・レズビアン・同性愛者 [同性のみに恋愛感情を抱く人] 3 バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも恋愛感情をだく人] 4 アセクシュアル・無性愛者 [誰に対しても恋愛感情を抱かない人] 5 決めたくない・決めていない 6 質問の意味がわからない
	問22	大人になってからのいじめられた経験	大人になってからの、身近な人による・・・ (項目は問21と同じ)				
学 歴	問32	自分の学歴	あなたが通った学校について、(1)最後に通った（または通っている）学校と、(2)その学校の卒業・中退・在学中の別をお答えください。		問47	恋愛感情を抱く相手の性別、性的に惹かれる相手の性別、セックスをする相手の性別	次の1～3について、（ア）これまでのことと、（イ）最近の5年間のことについて、それぞれもっとも近いものを1～6から1つずつ選んで○をつけてください。 (1)あなたが恋愛感情を抱く相手 1 男女どちらにも恋愛感情を抱いたことがない 2 男性のみ 3 ほとんどが男性 4 男性と女性同じくらい 5 ほとんどが女性 6 女性のみ (2)あなたが性的に惹（ひ）かれる相手 (3)あなたがセックスをする相手
	問35	両親の学歴	お父さまとお母さまが、最後に通った（あるいは在学中の）学校は次のどれにあたりますか。卒業、中退、在学中は問いません。				
S O G I 意 識	問42	同性同士の恋愛感情、性行為、および性別を変える人についてどう思うか	次の(1)～(7)のそれぞれについて、あなたのお考えにもっとも近いものを1,2,3,4から1つ選んで○をつけてください。（それぞれ○は1つ） (1) 男性が男性に恋愛感情を抱くのはおかしい (2) 女性が女性に恋愛感情を抱くのはおかしい (3) 男性どうしの性行為は、気持ちが悪い (4) 女性どうしの性行為は、気持ちが悪い (5) 男女間の性行為は、気持ちが悪い (6) 性別を男性から女性に変えるのは気持ちが悪い (7) 性別を女性から男性に変えるのは気持ちが悪い				

男女・年齢別・モード別、有効回答率



回答者の特徴

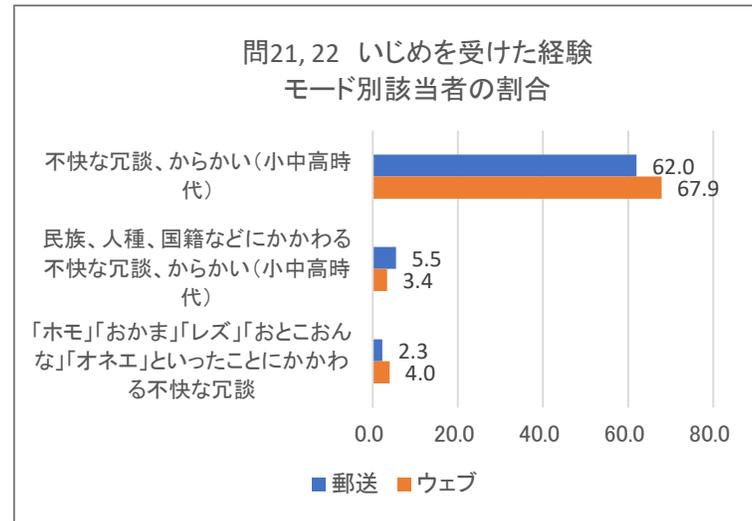
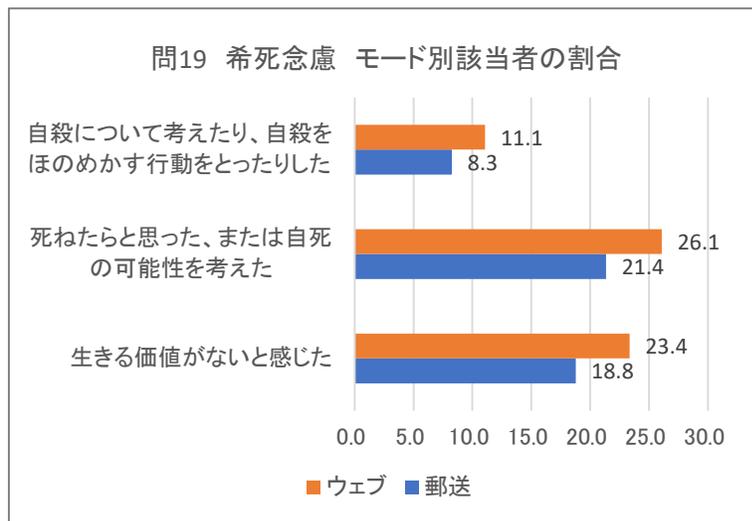
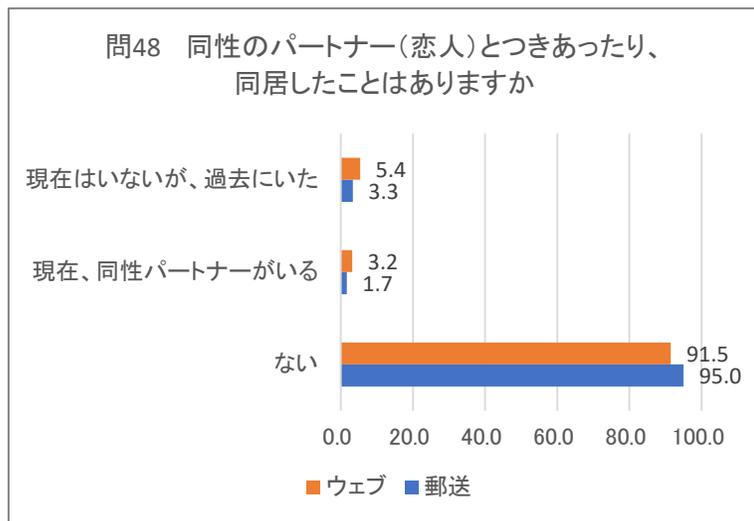
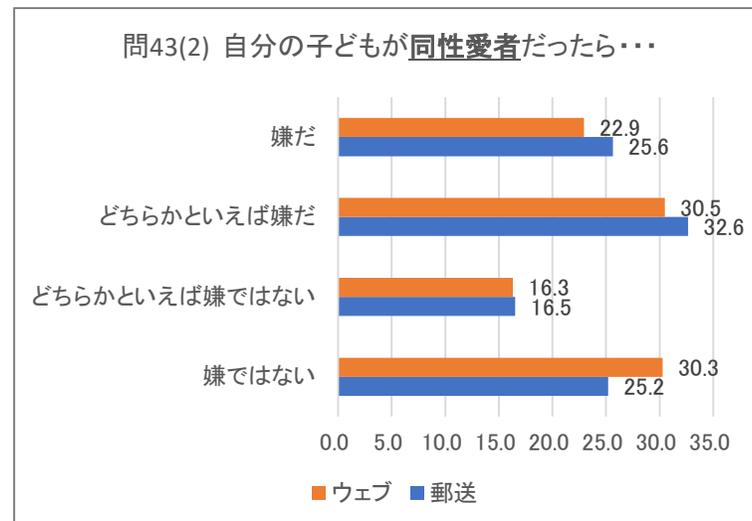
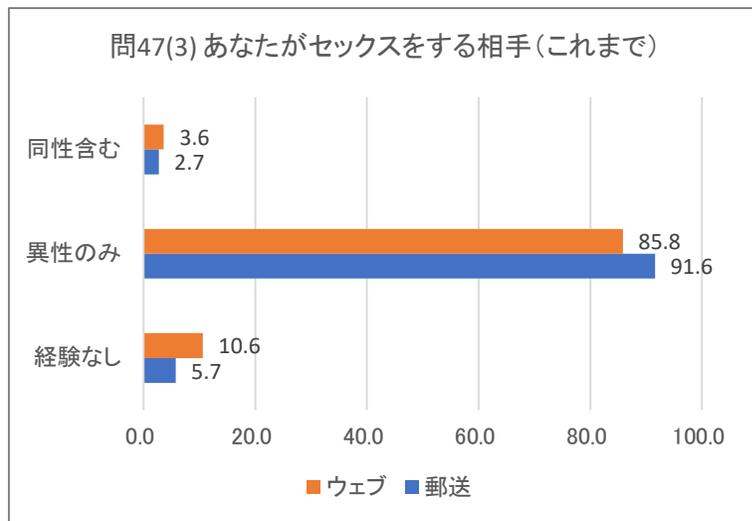
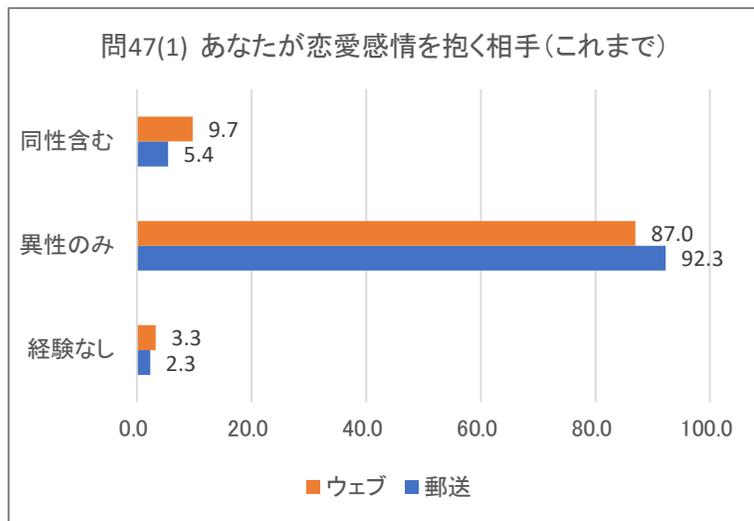
ウェブ回答者は、郵送回答者と比べ、以下の特徴がみられる

- ・ 男性
- ・ 若年：26歳までは郵送よりもウェブで回答する傾向
- ・ 未婚
- ・ 高学歴：中卒と比べ、大卒以上の学歴でウェブで回答する傾向
- ・ 就業者

項目無回答率

- ・ 項目全般、センシティブな項目全般について、ウェブの方が郵送よりも項目無回答率が低い
- ・ センシティブな項目のうち、SOGI項目については、ウェブと郵送の項目無回答率は同程度。ウェブでより多くの回答を得られるといった傾向はみられない。
- ・ 全般的な無回答傾向に男女差はみられない。しかし、SOGI項目に関しては、女性は男性よりも無回答率は高い。

センシティブな項目のモード別回答分布(%)



全体的に先行研究が示唆するとおり、ウェブでは社会的望ましさとは逆の回答が多くみられる傾向が観察される

まとめと課題

- 大阪市民調査では、ウェブ回答を取り入れても若年層の回収率向上には結びつかなかった。
- 項目無回答率は、個人属性を統制した後も、センシティブな項目全般について郵送回答よりもウェブ回答で低かった。しかし、SOGI設問では、ウェブ回答も郵送回答も同程度であった。
- モード別にみた回答分布については、個人属性を統制した後も、センシティブな項目について郵送回答よりもウェブ回答で、社会的望ましさと逆方向の回答が多かった。
- ウェブを用いることで、SOGI項目や希死念慮等のセンシティブな質問に対する過小報告を減らすことが、ある程度可能となるのではないか。
- **課題**：両性愛・同性愛、また出生時の性別と自認する性別が同じでないケースについては、該当者数が少ないため、大阪市民調査のサンプルでも独立した分析はできなかった。
- 性的少数者の置かれた環境や個人属性を把握し、差別や偏見を是正するための研究を行うためには、無作為抽出による全国レベルの調査が必要。
- 社会規範とは必ずしも一致しない指向や考えをもつ人々が安心して回答できるような調査設計や調査モードの使い方に関する研究も必要

「自治体における無作為抽出による市民対象調査でSOGIをどのように扱うか」
大阪市での実践を事例とした報告会

2021年3月22日

SOGIと地域

山内昌和

(早稲田大学教育学部社会科地理歴史専修)

本報告は現在投稿中の下記論文に基づいている。

山内昌和（投稿中）「大阪市における性的マイノリティの空間分布」『人口問題研究』

- 人口の地域分布への関心

→ 性的マイノリティの地域分布に特徴はあるのか？

例1： どのような地域に住んでいるのか？

例2： 人口全体の地域分布と違いはあるのか？

※報告者は学部・大学院生時代に地理学のコースに所属し、その後に就職した研究機関では人口学に関する部署に所属していた。

- ゲイやレスビアンの地域分布に関する実証研究があり、
以下のようなことが明らかになっている
 - ①大都市に集中して分布する傾向がみられる
(Black et al. 2000; Anderson et al. 2006; Duncan and Smith 2006;
Gates 2013; Wimark and Östh 2014)
 - ②都市の中で特定の地区に集中して分布する傾向があり、
集住地区を形成している
(Anacker and Morrow-Jones 2005; Blank and Rosen-Zvi 2012;
Schroeder 2014; Kanai and Kenttamaa-Squires 2015; Smart and
Whittemore 2017; Goldie 2018)

- 実証的な分析に乏しく、断片的な言及にとどまる

ゲイやレズビアン向け施設の集積する地区は存在するが、集住する地区はない (Yue and Leung 2017)

「日本の都市には同性愛者が集住する地区は存在しない」
(神谷・中澤 2018, p.78)

→ 性的マイノリティが特定の地域に集中し、集住地区を形成するというのは欧米の都市に特有の現象で、日本の都市にはみられないのだろうか？

- 研究課題

性的マイノリティの大阪市内での地域分布を検討する

分析課題①：特定の区に集中して分布しているのか？

分析課題②：集住地区は形成されているのか？

- 資料（データ）

大阪市民調査の個票

※データに含まれる性的マイノリティ（LGBT）のケース数が少ないため、知見の豊富な外国人（外国籍の人々）について同様の分析を行い、分析結果の妥当性にも注意する。

※※データに含まれる外国人のケースは性的マイノリティと同程度である。後述する結果2の分析に用いた例では、全ケースに占める割合は以下の通りであった

性的マイノリティ	3.2%
----------	------

外国人の割合	3.4%
--------	------

- 下記のオッズ比を利用

$$OR_{ku} = p_{ku} (1 - q_{ku}) / q_{ku} (1 - p_{ku})$$

OR_{ku} ：区 ku のオッズ比

p_{ku} ：大阪市の性的マイノリティに占める区 ku の性的マイノリティの割合

q_{ku} ：大阪市の非性的マイノリティに占める区 ku の非性的マイノリティの割合

指標の意味と解釈

1より大：大阪市全体に比べ性的マイノリティの割合が高い

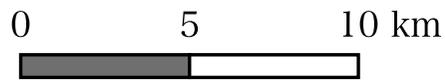
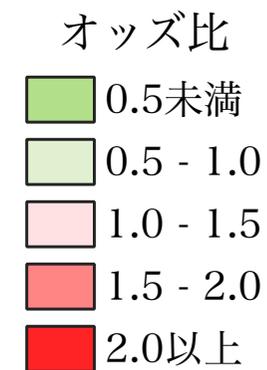
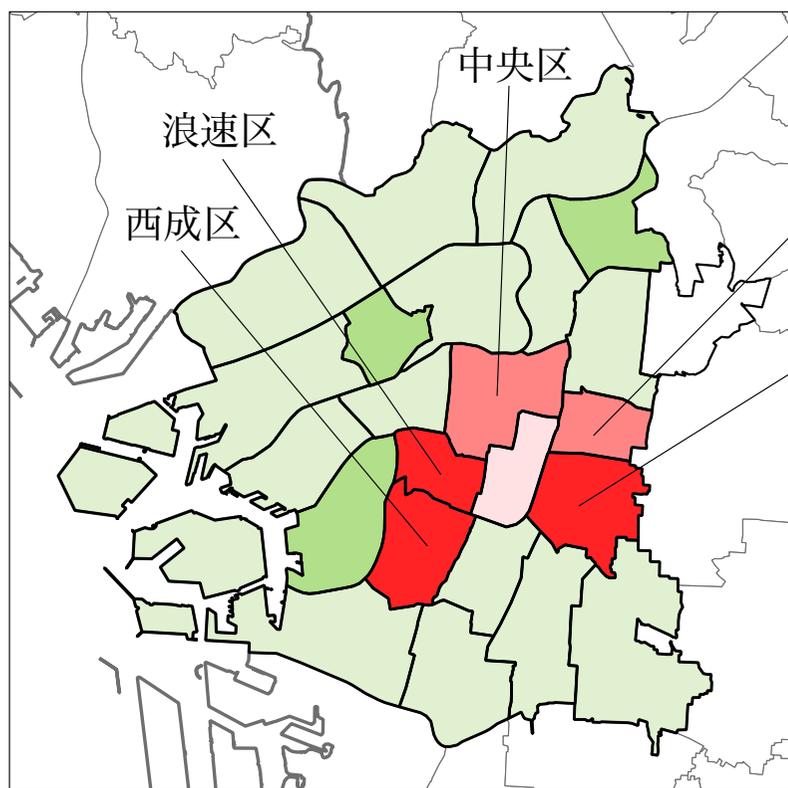
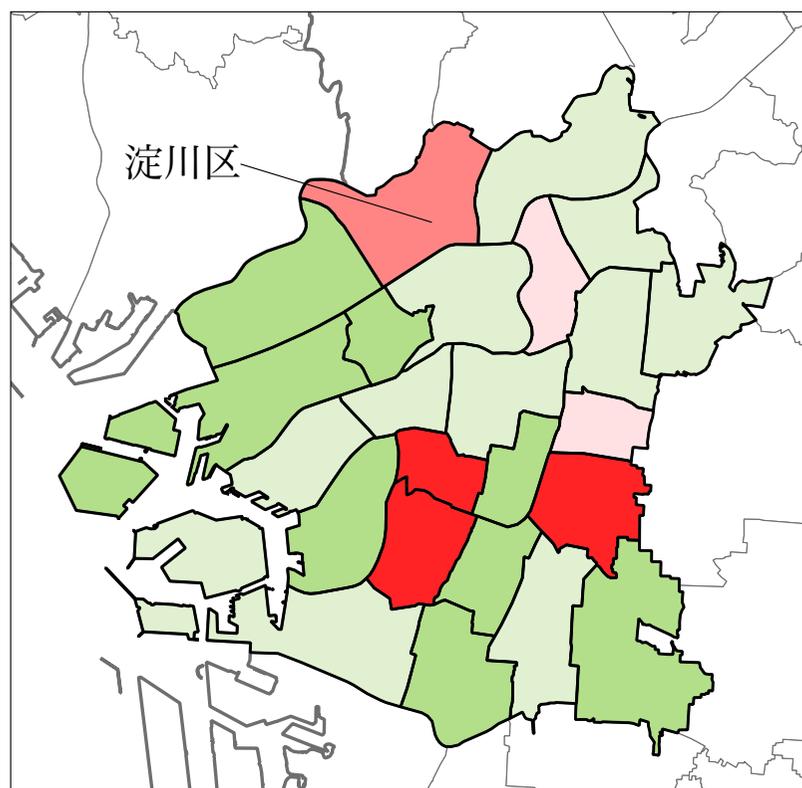
1より小：大阪市全体に比べ性的マイノリティの割合が低い

→オッズ比が区によってばらついている場合、オッズ比の大きい区に性的マイノリティの集中傾向があると考え

外国人のオッズ比

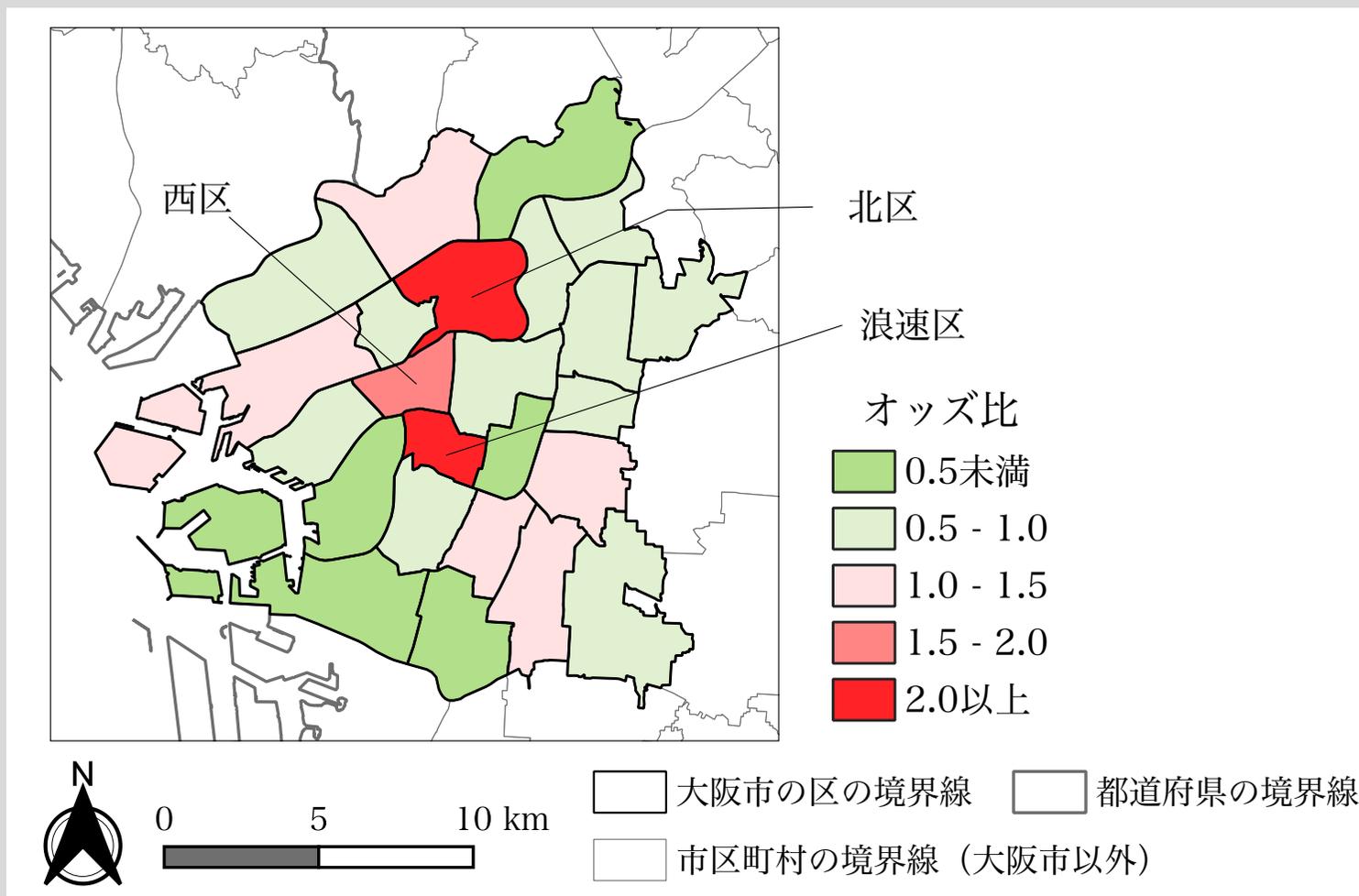
大阪市民調査

住民基本台帳



- 大阪市の区境界線
- 都道府県の境界線
- 市区町村の境界線 (大阪市以外)

性的マイノリティのオッズ比



- オッズ比から得られる知見

外国人の結果をみる限り、オッズ比は有用だが、高い/低いを評価する指標として使うにとどめる方が良さそう

性的マイノリティのオッズ比は特定の区（浪速区、北区、西区）で特に高い

→性的マイノリティが特定の区に集中する傾向がみられる

- 性的マイノリティであるかどうかを推定する
ロジスティック回帰モデルを適用

被説明変数：性的マイノリティである場合を1、
そうでない場合を0とするダミー変数

説明変数：性的マイノリティの集住地区形成の可能性が
高い区を1、低い区を0とするダミー変数*

*結果①のオッズ比が1.5以上を高い区、1.5未満を低い区とする

統制変数：出生時の性別、年齢、世帯人員、学歴、職種、
居住期間

- モデルの解釈

さまざまな変数を統制しても性的マイノリティである確率が特定の地域で有意に高い



そのような特定の地域には集住地区が形成されていて、性的マイノリティを強く引きつけていると考える

- モデルの推定結果*

*説明変数と統制変数との交互作用を考慮した推定結果

外国人の結果

説明変数の回帰係数のオッズ比※：18.44

上記の95%信頼区間：5.00-71.34

性的マイノリティの結果

説明変数の回帰係数のオッズ比※：3.36

上記の95%信頼区間：0.40-19.31

※ 結果①のオッズ人は異なる指標ですのでご注意ください

- 回帰分析から得られる知見

外国人の結果

説明変数は統計的に有意で、既存研究とも整合的
推定には改善の余地がありそう

性的マイノリティの結果

説明変数は統計的に有意ではない
推定には改善の余地がありそう

→性的マイノリティの集住地区が形成されている可能性は
低いだろう

- 大阪市では、性的マイノリティが特定の区（浪速区や北区、西区）に集中して分布する傾向がみられる
 - 大阪市では、性的マイノリティの集住地区が形成されている可能性は低いだろう
- 浪速区や北区には性的マイノリティ向け施設の集積する地区があるため、欧米の集住地区の発達モデル（Collins and Drinkwater 2017、須崎2020）でいうところの集住地区形成の初期段階に位置づけられる可能性があるかもしれない。

- 標本調査の活用方法の検討*

*標本調査から得られる知見は大切であり、今後の活用が課題

- 標本調査以外の手法を用いた検討*

*質的調査などから得られる知見も大切であり、本報告の検証も含めた知見の蓄積が課題

- 多様な空間スケールでの検討*

*市区町村レベルや町丁レベルでの検討を通じて、国際比較を含めた地域間比較、さらには他のマイノリティとの比較が課題

- 神谷浩夫・中澤高志 (2018) 『ベーシック都市社会地理学』ナカニシヤ出版.
- 須崎成二(2020)「新宿二丁目におけるゲイ・ディストリクトの空間的特徴と存続条件」『都市地理学』14:16-27.
- Anacker, K B. and Morrow-Jones, H A. (2005) "Neighborhood factors associated with same-sex households in US cities," *Urban Geography* 26(5): 385-409.
- Anderson, G., Noack, T., Seierstad, A., and Weedon-Fekjær, H. (2006) "The demographics of same-sex marriages in Norway and Sweden," *Demography* 43(1): 79-98.
- Black, D., Gates, G., Sanders, S., and Taylor, L. (2000) "Demographics of the gay and lesbian population in the United States: Evidence from available systematic data sources," *Demography* 37(2): 139-154.
- Blank, Y. and Rosen-Z, I. (2012) "The geography of sexuality," *Noth Carolina Law Review* 90(4): 955-1026.
- Collins, A. and Drinkwater, S. (2017) "Fifty shades of gay: Social and technological change, urban deconcentration and niche enterprise," *Urban Studies* 54(3): 765-785.
- Duncan, S. and Smith, D. (2006) "Individualisation versus the geography of 'new' families," *Contemporary Social Science: Journal of the Academy of Social Sciences* 1(2): 167-189.
- Gates, G. (2013) "Geography of LGBT population," In Baumle, A K. (ed.) *International handbook on the demography of sexuality*, Springer Netherland, pp.229-242.
- Goldie X. (2018) "Together, but separate: Neighborhood-scale patterns and correlates of spatial segregation between male and female same-sex couples in Melbourne and Sydney," *Urban Geography* 39(9): 1391-1417.
- Kanai, J M. and Kenttamaa-Squires, K. (2015) "Remaking South Beach: Metropolitan gayborhood trajectories under homonormative entrepreneurialism," *Urban Geography* 36(3): 385-402.
- Schroeder, C G. (2014) "(Un)holy Toledo: Intersectionality, interdependence, and neighborhood (trans)formation in Toledo, Ohio," *Annals of the Association of American Geographers* 104(1): 166-181.
- Smart, M J. and Whitemore A H. (2017) "There goes the gaybourhood? Dispersion and clustering in a gay and lesbian real estate market in Dallas TX, 1986-2012," *Urban Studies* 54(3): 600-615.
- Wimark, T. and Östh, J. (2014) "The city as a single gay male magnet?: Gay and lesbian geographical concentration in Sweden," *Popultion, Space and Place* 20(8): 739-752.
- Yue, A. and Leung, H H. (2017) "Notes towards the queer Asian city: Singapore and Hong Kong," *Urban Studies* 54(3): 747-764.



大阪市民の働き方と
暮らしの多様性と
共生にかんするアンケート

SOGIと学校
— いじめの悪影響は大人
になっても残るのか？

岩本健良
(金沢大学)

iwamot@staff.
kanazawa-u.ac.jp

今日の話の流れ

- 1.はじめに：SOGIに関するいじめの悪影響
- 2.理論的枠組み：小児期逆境体験（ACEs）の研究から
- 3.学校でどの程度いじめを受けているのか
(LGBTとシスジェンダー異性愛者との比較)
- 4.いじめの長期的影響の分析
(学歴・収入・メンタルヘルスへの影響、
メンタルヘルスへの影響(年代別))
- 5.まとめ

1.はじめに：SOGIに関する いじめの悪影響

• 性的マイノリティの学校でのいじめ被害

日本でも近年、言葉によるいじめや性的暴力などの被害実態を調査。

- 「LGBTの学校生活に関する実態調査(2013)」
(いのち リスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン)、
- 「REACH Online 2016 for Sexual Minorities」 (日高)、など。

これら調査の課題

- (1) LGBTのみの調査のため、それ以外と比較できない。
- (2) サンプリング調査でなく、統計的検証が困難。
- (3) いじめ被害経験の、卒業(退学)後への影響が不明。

海外での先行研究例

(問題意識)

LGBTのさまざまな困難の存在の検証→そうした困難を生むメカニズムの解明→困難の解決策→政策的示唆など

- Drydakis (2018)
 - 学校時代のいじめ
 - 低学歴・非ホワイトカラー職
(特にG・B男性)
 - 職場でのいじめ、低い仕事満足
(L・G・B男女に共通)

日本での研究動向

いじめの長期的影響に関する研究動向：56論文のレビュー
(亀田・会沢・藤枝 2017)

- 質的研究：いじめ被害体験→精神障害・PTSD外傷後ストレス障害, いじめ被害体験の克服・回復過程
- 量的研究：いじめの被害体験→身体的・精神的・心理的影響、自尊感情との関連

<方法論的 2 つの課題>

長期的影響といっても、大半は大学生が調査対象

- 1) より長期的影響は不明
(若いタフな時期は乗り越えられても..)
- 2) 高卒以下の学歴の人を除外
(より影響が大きい可能性あり)

- SOGIに関するいじめの長期的影響の研究：未着手

2.理論的枠組み：小児期逆境体験（ACEs）の研究から

Q そもそも、なぜ学校時代のいじめ被害経験が、ずっと後まで悪影響を及ぼすのか？

ライフコース疫学研究の成果（Berkman他編『社会疫学』等）

小児期の逆境体験（Adverse Childhood Experiences: ACEs）

対人喪失
（親の死・親の離婚）
親の精神疾患
母親への暴力の目撃
虐待
（精神的・身体的）
ネグレクト
子ども期の貧困

脳への
ダメージも

ライフスタイル・疾病

依存性のある行動
（喫煙、肥満、アルコール
依存、性的逸脱行動）

心疾患、
自傷念慮・自殺未遂
がん、骨折、など

他人への暴力などにも

↑「学校でのいじめ」もここに
（本格的研究はこれから）

3.学校でどの程度いじめを受けているのか

<大阪調査での質問文>

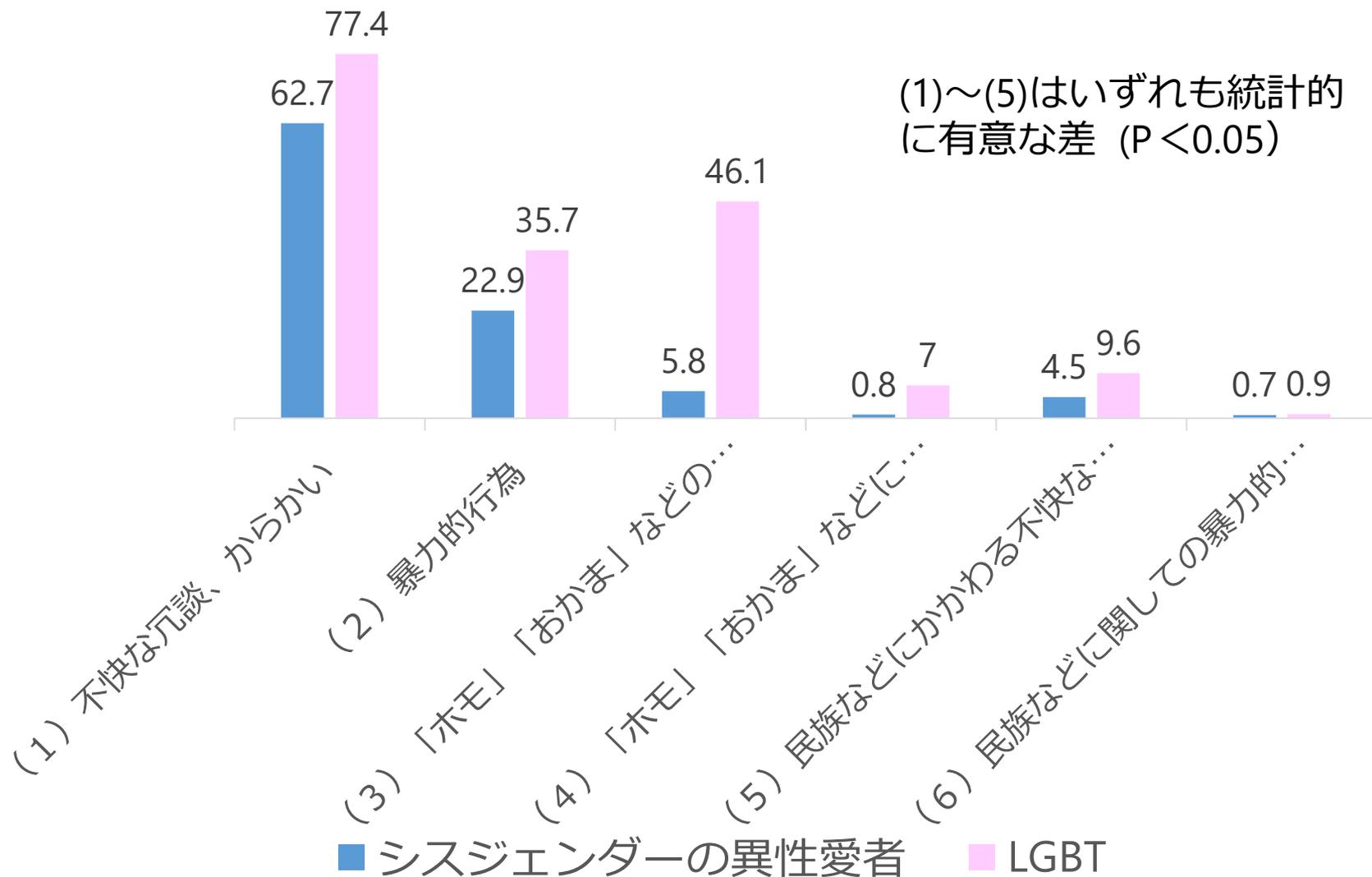
ここでは、学校に通っていた頃や、大人になってからの人間関係についてうかがいます。

問 21 小学校から高校時代のあいだに、次の (1) から (6) のようなことはありましたか。
(ア)と(イ)のそれぞれについて、「ある」、「ない」のどちらかに○をつけてください。

(注：登下校時や学外の部活等も含む)
小・中学校や高校での友人や同級生による・・・

	(ア) 自分が 受けたこと		(イ) 見聞き したこと	
	ある	ない	ある	ない
(1) 不快な冗談、からかい	ある	ない	ある	ない
(2) 暴力的行為	ある	ない	ある	ない
(3) 「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」と いったことにかかわる、不快な冗談、からかい	ある	ない	ある	ない
(4) 「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」と いったことでふるわれる、暴力的な行為	ある	ない	ある	ない
(5) 民族、人種、国籍などにかかわる不快な冗談、からかい	ある	ない	ある	ない
(6) 民族、人種、国籍などに関してふるわれる暴力的行為	ある	ない	ある	ない

学校で受けたいじめ経験（「ある」%）



4. いじめの長期的影響の分析(重回帰分析) ((1) 学歴・収入・メンタルヘルスへの影響)

		被説明変数					
		教育年数		収入		メンタルヘルス (K 6)	
説明変数		標準化係数	有意確率	標準化係数	有意確率	標準化係数	有意確率
コントロール変数	年齢	-.187	.000	.133	.000	-.061	.000
	出生時性別 (女性ダミー)	-.055	.000	-.072	.000	.032	.038
学校でのいじめ被害経験	(1) 不快な冗談、からかい	.014	.401	-.034	.046	.149	.000
	(2) 暴力的行為	-.036	.032	.072	.000	.097	.000
	(3) 「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」といったことにかかわる、不快な冗談、からかい	.007	.684	.029	.103	.036	.032
	(4) 「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」といったことでふるわれる、暴力的な行為	-.025	.145	-.018	.307	.004	.830
	(5) 民族、人種、国籍などにかかわる不快な冗談、からかい	-.018	.301	-.020	.247	.042	.013
	(6) 民族、人種、国籍などに関してふるわれる暴力的行為	.004	.805	.003	.863	.009	.612
自由度調整済みR ²		0.039		0.028		0.056	

* K 6 の説明は、この大阪市民調査の『報告書 (単純集計結果)』 p.23を参照)

(2) メンタルヘルスへの影響(年代別)

被説明変数 K6		年齢							
		18-29歳		30-39歳		40-49歳		50-60歳	
説明変数		標準化係数	有意確率	標準化係数	有意確率	標準化係数	有意確率	標準化係数	有意確率
コントロール変数	年齢	-.006	.874	-.041	.196	-.002	.938	-.076	.007
	出生時性別（女性ダミー）	.042	.276	.063	.061	.002	.953	.052	.065
学校でのいじめ被害経験	(1) 不快な冗談、からかい	.158	.000	.148	.000	.196	.000	.095	.002
	(2) 暴力的行為	.092	.029	.095	.004	.070	.022	.120	.000
	(3) 「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」といったことにかかわる、不快な冗談、からかい	.073	.101	.045	.190	-.007	.813	.042	.169
	(4) 「ホモ」「おかま」「レズ」「おとこおんな」「オネエ」といったことでふるわれる、暴力的な行為	-.024	.601	.012	.751	-.034	.274	.075	.015
	(5) 民族、人種、国籍などにかかわる不快な冗談、からかい	.060	.167	-.011	.748	.049	.106	.078	.018
	(6) 民族、人種、国籍などに関してふるわれる暴力的行為	.018	.692	-.058	.129	.026	.382	.006	.853
自由度調整済みR ²		0.055		0.041		0.058		0.068	

5.まとめ

<主な知見>

- (1) LGBTは、シスジェンダーの異性愛者に比べ、いじめ被害をさまざまな面で多く受けており、統計的に有意な差が確認された。
- (2) 学校時代のいじめ被害経験は、成人期以降の社会経済的側面（学歴・所得）およびメンタルヘルス（K6）に主に悪影響を及ぼしている。
- (3) 学校時代の、言葉や暴力によるいじめ被害経験は、20代から50代まで、一貫してメンタルヘルス（K6）に悪影響を及ぼしている。加えて50代では、性的指向・性自認に関する暴力行為、およびエスニシティに関する言葉によるいじめの影響がみられた。これは育った時代あるいは世代の効果と考えられる。

<今後の課題>

- LGBへの影響とTへの影響を別々に分析
- 飲酒・喫煙等の嗜癖への影響
- （回顧的回答による）リコールバイアスの検討

参考文献

- Berkman, Lisa F., Ichiro Kawachi, M. Maria Glymour (eds) 2014. *Social Epidemiology* 2nd Ed. Oxford Univ. Pr. (井上幸子ほか訳 2017. 『社会疫学』 (上・下) 大修館書店)
- Drydakis, Nick. 2019. 'School-Age Bullying, Workplace Bullying and Job Satisfaction: Experiences of LGB People in Britain' *The Manchester School*. 87 (4): 455-488.
- 日高庸晴 2017. 『LGBT当事者の意識調査～いじめ問題と職場環境等の課題～』 (REACH Online 2016 for Sexual Minorities)
https://www.health-issue.jp/reach_online2016_report.pdf
- いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン 2014.
『LGBTの学校生活に関する実態調査(2013)結果報告書』
<https://ameblo.jp/respectwhiteribbon/entry-11830490750.html>
- 亀田秀子・会沢信彦・藤枝静暁 2017. 「わが国のいじめの長期的影響に関する研究動向と展望—1980年から2016年までの学術論文・大学紀要論文における研究の動向と課題—」 『十文字学園女子大学教育学部紀要』 51: 333-347.
<http://id.nii.ac.jp/1351/00007117/>



シスジェンダーのレズビアン・バイセクシュアル 女性の家族形成ニーズは？

藤井ひろみ (大手前大学 国際看護学部 母性看護学領域)
布施 香奈 (国立社会保障・人口問題研究所)
釜野さおり (国立社会保障・人口問題研究所)

目的

「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」から女性同性カップルの家族形成ニーズを明らかにすること。

背景

出生時の届出の性別が女性であり、性自認が出生届の性別と同じ人は2,486人。

性的指向をレズビアンと回答した人は6人、

バイセクシュアルと回答した人は38人、

異性愛者と回答した人は2,076人。

レズビアン・バイセクシュアル女性は女性人口の約2（1.8）%と考えられる

対象者の属性

	レズビアン/バイ セクシュアル女性		異性愛女性	
	n=44		n=2,076	
	n	%	n	%
レズビアン	6	13.6	-	-
バイセクシュアル	38	86.4	-	-
年齢				
18-29	19	43.2	333	16.4
30-39	15	34.1	540	26.6
40-49	8	18.2	608	29.9
50-60	2	4.6	553	27.2
婚姻歴				
結婚している	14	31.8	1,251	60.5
結婚したことがない	28	63.6	585	28.3
離別した	2	4.6	207	10.0
死別した	-	-	20	1.0
その他	-	-	5	0.3
同性パートナーの有無				
いない	22	50.0	1,987	96.3
現在、同性パートナーがいる	8	18.2	29	1.4
現在はいないが、過去にいた	14	31.8	47	2.3
子どもの有無				
子どもはいない	33	75.0	912	44.2
1人以上の子どもがいる	11	25.0	1,150	55.8
(そのうち、18歳未満の子どもがいる)	(9)		(770)	

レズビアン・バイセクシュアル女性の 家族形成に関する設問の回答傾向

- 同性カップルが法的に結婚できる制度
- 親が育てられない子どもを、同性カップルが養子や里子として迎え、育てることのできる制度

異性愛女性に比べ、賛成割合は高い。

($p=0.032$, $p=0.038$)

問 51

次のような制度や取り組みについて、あなたは賛成ですか、反対ですか。
あなたのお考えにもっとも近いものに○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

	賛成	やや賛成	やや反対	反対
(1) 同性カップル(女どうし・男どうしのカップル)が、法的に結婚できる制度	1	2	3	4
(2) 親が育てられない子どもを、同性カップルが養子や里子として迎え、育てることのできる制度	1	2	3	4
(3) 女どうしのカップルが、生殖補助医療などによって、子どもをもてるように支援する	1	2	3	4
(4) 職場・学校・地域で、同性愛者や性別を変えた人も、差別なく公平に扱われるための法律・条例の整備	1	2	3	4
(5) 職場、学校、地域における、多様な性のあり方についての啓発	1	2	3	4
(6) 同性愛という性のあり方があることや、性別を変えたいと望む人のことを、義務教育で教えること	1	2	3	4

レズビアン・バイセクシュアル女性と異性愛女性 ～妊娠や子育ての制度や取り組みに関する意識～

	レズビアン・ バイセクシュアル女性				異性愛女性				カイ二乗 検定 p値
	賛成		反対		賛成		反対		
	n	%	n	%	n	%	n	%	
同性カップル（女どうし・男どうしの カップル）が、法的に結婚できる制度	44	100.0	0	0	1,865	90.5	195	9.5	0.032
親が育てられない子どもを、同性カップ ルが養子や里子として迎え、育てること のできる制度	43	97.7	1	2.3	1,800	87.3	262	12.7	0.038
女どうしのカップルが、生殖補助医療な どによって、子どもをもてるように支援 する	38	86.4	6	13.6	1,517	74.1	530	25.9	n.s
職場・学校・地域で、同性愛者や性別を 変えた人も、差別なく公平に扱われるた めの法律・条例の整備	44	100.0	0	0	1,982	96.3	77	3.7	n.s
職場、学校、地域における、多様な性の あり方についての啓発	44	100.0	0	0	1,919	93.6	132	6.4	n.s
同性愛という性のあり方があることや、 性別を変えたいと望む人のことを、義務 教育で教えること	43	97.7	1	2.3	1,852	90.0	205	10.0	n.s

レズビアン・バイセクシュアル女性の 直面する課題に関する設問の回答傾向

性的マイノリティは医療、民間サービス、死別に関して課題に直面していると回答し、異性愛女性に比べ高い。

問 52

LGBT などの性的少数者の方々が日常生活を営むうえで直面している課題と思われるものを、1~8の中から選んでください。(○はいくつでも)

- 1 こども・教育(学校の制服、宿泊行事、トイレ、更衣室、プール)
- 2 就労(採用試験、更衣室、トイレ、結婚休暇や介護休暇などの福利厚生制度)
- 3 住宅(賃貸住宅の入居拒否)
- 4 医療(パートナーの手術の同意、安否情報の提供、看護)
- 5 民間サービス(家族と同等のサービス提供(家族割引・生命保険の受取など))
- 6 死別(葬儀への出席、遺産相続)
- 7 その他[具体的に:]
- 8 直面している課題はないと思う

※「LGBT」とは、レズビアン(同性のみに性愛感情を抱く女性)、ゲイ(同性のみに性愛感情を抱く男性)、バイセクシュアル(男女どちらにも性愛感情を抱く人)、トランスジェンダー(出生時の(戸籍や出生届での)性別とは異なる性を自認する人)の英語の頭文字をとった言葉です。「性的少数者」には、LGBT以外にも、誰に対しても性愛感情を抱かない人や、自分自身の性を決められない・わからない、などさまざまな人がいます。

レズビアン・バイセクシュアル女性と異性愛女性 ～性的マイノリティが直面している課題に関する意識～

	レズビアン・ バイセクシュアル女性				異性愛女性				カイ二乗 検定 p値
	直面している		直面していない		直面している		直面していない		
	n	%	n	%	n	%	n	%	
こども・教育（学校の制服、宿泊 行事、トイレ、更衣室、プール）	41	93.2	3	6.8	1,822	89.1	223	10.9	n.s
就労（採用試験、更衣室、トイレ、結婚 休暇や介護休暇などの福利厚生制度）	34	77.3	10	22.7	1,639	80.2	406	19.9	n.s
住宅（賃貸住宅の入居拒否）	22	50.0	22	50.0	1,446	70.7	599	29.3	0.003
医療（パートナーの手術の同意、 安否情報の提供、看護）	35	79.6	9	20.5	1,109	54.2	936	45.8	0.001
民間サービス（家族と同等のサー ビス提供（家族割引・生命保険の 受取など））	30	68.2	14	31.8	921	45.0	1,124	55.0	0.002
死別（葬儀への出席、遺産相続）	32	72.7	12	27.3	792	38.7	1,253	61.3	0.000

考察

- 先行研究では、異性婚をして授かった実子を同性パートナーに出会ってともに育てるというパターンから、同性カップルが初めから生殖補助医療を用いて子どもをもつことを計画するパターンへと、変化していくと指摘されている。同性カップルと異性愛カップルの子を比較し、発達や生育に差がないことも、先行研究で報告されている。

McNair R, Brown R. Legitimising Rainbow Families Using Partnerships for Change. Aust. Fem. Law J. 2007, 27(1), 163-174.

Bos H, Gartrell N, Roeleveld J, et al. Civic Competence of Dutch Children in Female Same-Sex Parent Families. Y & S. 2016, 48(5), 628-648.

- 日本では、未婚者が生殖補助医療を受けることは未だ困難であることから、医療者を介在しない精子提供・人工授精や、海外で医療を受けようとする事例が生じている。レズビアン・バイセクシュアル女性の妊娠希望をかなえる生殖補助医療の適用拡大を検討すべき。
- 日本の母子保健は市町村が実施主体である。自治体が性的少数者を含めた多様な親による子育てを支援するためには、支援策の根拠となる調査が実施されることが重要である。

【参考】 健やか親子21 基盤課題C 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり：健康水準の指標
「この地域で子育てをしたいと思う親の割合」 2024年目標値95.0%

SOGIとお金

-SOGIと収入・学歴との関連はみられるか？-

※本報告はJSPS科研費16H03709「性的指向と性自認の人口学—
日本における研究基盤の構築」および

日本経済研究センター研究奨励金による成果の一部である。

※本報告の一部は「社会階層——SOGIに基づく階層・不平等」岩本健良・釜野さおり編
『LGBT/SOGIと社会』ミネルヴァ書房（近刊）に基づくものである。

平森大規（hiramori@uw.edu）

ワシントン大学大学院社会学研究科博士候補生

「自治体における無作為抽出による市民対象調査で
SOGIをどのように扱うか」

大阪市での実践を事例とした報告会

2021年3月22日@オンライン開催（Zoom）

性的マイノリティは裕福？貧困？高学歴？低学歴？

- > 近年、性的マイノリティに関する大規模ウェブ調査が増加
 - > 量的調査の利点：ジェンダー・セクシュアリティに関する不平等の構造や傾向を数字の形（～％）で表せる
 - > 学校における性的マイノリティに対するいじめ・暴力や、職場における差別的言動
- Q：性的マイノリティの社会経済的状况はそうでない人々と比べてよい？それとも悪い？SOGIと収入・学歴との関連はみられるか？
- 本日取り上げる内容：
- > 性的指向・性自認のあり方に基づく賃金・学歴格差

本日使用するデータ、分析対象、留意点

- > 既存の量的調査では、性的マイノリティとそうでない人との統計的な比較を**代表性のある同一のデータ**で行うことが困難→「**大阪市民調査**」を利用

本報告における主な分析対象：

- > 25-60歳で収入を伴う仕事についている分析で使用する変数に欠測のない出生時女性1,643人（非異性愛者46人、トランスジェンダー11人）、出生時男性1,389人（非異性愛者34人、トランスジェンダー6人）

留意点：

- > 分析結果は日本全国に一般化できない
- > 性的マイノリティ該当者（特にトランスジェンダー）が少ないため、多くの結果はあくまで示唆的なもの

現在、性的指向・性自認のあり方と収入について何がわかっているのか？

- > レズビアンプレミアム（平均賃金+9%）
- > ゲイペナルティ（平均賃金-11%）（Klawitter 2015）

- > BRFSS調査における低収入（15,000ドル未満）割合：
 - > シスジェンダー：10%
 - > トランスジェンダー：16%（Meyer et al. 2017）

- > 認定NPO法人虹色ダイバーシティ・国際基督教大学ジェンダー研究センターのウェブ調査（Hiramori 2018）：
 - > 日本では、非異性愛男女・トランスジェンダーともに低賃金？

※性的指向・性自認のあり方と収入に関する詳細な研究動向については以下の文献を参照
岩本健良・平森大規・内藤忍・中野諭, 2019, 「性的マイノリティの自殺・うつによる社会的損失の試算と非当事者との収入格差に関するサーベイ」 JILPTディスカッションペーパー19-05.

Hiramori (2018:49)による研究

- > Hiramori, Daiki. 2018. "Social-institutional Structures That Matter: A Quantitative Monograph of Sexual/gender Minority Status and Earnings in Japan." *SocArXiv*. doi:10.31235/osf.io/u2rh3.



Hiramori (2018:49)による研究

- > Hiramori, Daiki. 2018. "Social-institutional Structures That Matter: A Quantitative Monograph of Sexual/gender Minority Status and Earnings in Japan." *SocArXiv*. doi:10.31235/osf.io/u2rh3.



どのような要因が性的指向と収入の関係性に影響しているのか？ (Klawitter 2015)

1. 雇用者による差別 (Badgett 1995)

- 賃金に影響を与える学歴や職業などの要因を統制しても性的指向による賃金差があるなら、それは雇用者による差別なのでは

2. 人的資本論 (Badgett 2007)

- レズビアン：異性愛女性と異なり、収入の多い男性パートナーに経済的に頼れない→人的資本の蓄積傾向が高い、自立傾向
- ゲイ：異性愛男性と異なり、収入の低い女性パートナーを経済的に養う必要がない→人的資本の蓄積傾向が低い

3. ジェンダーおよび世帯内における分業 (Black et al. 2007)

- 同性カップル：共働き世帯、子なし世帯の多さ
- 性別役割分業や育児の負担格差は異性カップルほど深刻でない
- レズビアン：異性愛女性と比べて長時間労働の傾向
- ゲイ：異性愛男性と比べて短時間労働の傾向

日本における実態——大阪市民調査からみた性的指向・性自認のあり方と賃金

出生時女性：異性愛 > 非異性愛、シスジェンダー > T

出生時男性：異性愛 ≧ 非異性愛、シスジェンダー ≧ T

表1. 大阪市民調査からみた性的指向・性自認と賃金

性的指向・性自認のあり方	平均時給（1時間あたりの賃金）	
	出生時性別：女性	出生時性別：男性
異性愛者 （基準カテゴリ）	2,017円	3,032円
非異性愛者= セクシュアル・マイノリティ	1,858円 (-7.9%)	2,368円 (-21.9%)
シスジェンダー （基準カテゴリ）	2,000円	2,992円
トランスジェンダー= ジェンダー・マイノリティ	1,881円 (-6.0%)	2,483円 (-17.0%)

日本における実態——大阪市民調査からみた性的指向・性自認のあり方と賃金

出生時女性：異性愛 > 非異性愛、シスジェンダー > T

出生時男性：異性愛 ≫ 非異性愛、シスジェンダー ≫ T

表1. 大阪市民調査からみた性的指向・性自認と賃金

性的指向・性自認のあり方	平均時給（1時間あたりの賃金）	
	出生時性別：女性	出生時性別：男性
異性愛者 （基準カテゴリ）	2,017円	3,032円
非異性愛者= セクシュアル・マイノリティ	1,858円 (-7.9%)	2,368円 (-21.9%)
シスジェンダー （基準カテゴリ）	2,000円	2,992円
トランスジェンダー= ジェンダー・マイノリティ	1,881円 (-6.0%)	2,483円 (-17.0%)

日本における実態——大阪市民調査からみた性的指向・性自認のあり方と賃金

出生時女性：異性愛 > 非異性愛、シスジェンダー > T

出生時男性：異性愛 ≫ 非異性愛、シスジェンダー ≫ T

表1. 大阪市民調査からみた性的指向・性自認と賃金

性的指向・性自認のあり方	平均時給（1時間あたりの賃金）	
	出生時性別：女性	出生時性別：男性
異性愛者 （基準カテゴリ）	2,017円	3,032円
非異性愛者= セクシュアル・マイノリティ	1,858円 (-7.9%)	2,368円 (-21.9%)
シスジェンダー （基準カテゴリ）	2,000円	2,992円
トランスジェンダー= ジェンダー・マイノリティ	1,881円 (-6.0%)	2,483円 (-17.0%)

現在、性的指向・性自認のあり方と学歴について何がわかっているのか？

- > 米国情勢調査 (Black et al. 2000) :
 - > 同居している同性パートナーがいる女性：47%大卒
 - > (異性と) 結婚している女性：23%大卒
 - > 同居している同性パートナーがいる女性：43%大卒
 - > (異性と) 結婚している女性：25%大卒
- 同性愛者の教育達成は異性愛者に比べて高い？ (ただし、低いとする研究もあり未確定)
- > 米国BRFSS調査 (Meyer et al. 2017) :
 - > シスジェンダーの大卒割合：26%
 - > トランスジェンダーの大卒割合：13%
- トランスジェンダーの教育達成はシスジェンダーに比べて低い？

どのような要因が性的指向と学歴の関係性に影響しているのか？

> 非異性愛者の方が高学歴 (Barrett et al. 2002) :

1. 非異性愛者に対して寛容でない職業を避けるため
2. 大学に進学する方が就職するよりも寛容な環境なため
3. 卒業後は企業・組織において差別的取り扱いを受ける可能性が高いため

> 非異性愛者の方が低学歴 (Mollborn and Everett 2015) :

1. マイノリティ・ストレス仮説 (Meyer 2003)

日本における実態——大阪市民調査からみた性的指向・性自認のあり方と教育達成

出生時女性：異性愛 < 非異性愛、シスジェンダー ≧ T

出生時男性：異性愛 > 非異性愛、シスジェンダー ≧ T

表2. 大阪市民調査からみた性的指向・性自認と教育達成

性的指向・性自認のあり方	大卒割合	
	出生時性別：女性	出生時性別：男性
異性愛者	31.0%	49.4%
非異性愛者= セクシュアル・マイノリティ	43.5%	44.1%
シスジェンダー	31.2%	49.2%
トランスジェンダー= ジェンダー・マイノリティ	27.3%	16.7%

日本における実態——大阪市民調査からみた性的指向・性自認のあり方と教育達成

出生時女性：異性愛 < 非異性愛、シスジェンダー ≧ T

出生時男性：異性愛 > 非異性愛、シスジェンダー ≧ T

表2. 大阪市民調査からみた性的指向・性自認と教育達成

	大卒割合	
性的指向・性自認のあり方	出生時性別：女性	出生時性別：男性
異性愛者	31.0%	49.4%
非異性愛者= セクシュアル・マイノリティ シスジェンダー	43.5%	44.1%
トランスジェンダー= ジェンダー・マイノリティ	27.3%	16.7%

日本における実態——大阪市民調査からみた性的指向・性自認のあり方と教育達成

出生時女性：異性愛 < 非異性愛、シスジェンダー \geq T

出生時男性：異性愛 > 非異性愛、シスジェンダー \gg T

表2. 大阪市民調査からみた性的指向・性自認と教育達成

性的指向・性自認のあり方	大卒割合	
	出生時性別：女性	出生時性別：男性
異性愛者	31.0%	49.4%
非異性愛者= セクシュアル・マイノリティ	43.5%	44.1%
シスジェンダー	31.2%	49.2%
トランスジェンダー= ジェンダー・マイノリティ	27.3%	16.7%

日本における実態——大阪市民調査からみた性的指向・性自認のあり方と就業状況

出生時女性：異性愛 > 非異性愛、シスジェンダー ≫ T

出生時男性：異性愛 > 非異性愛、シスジェンダー ≫ T

表3. 大阪市民調査からみた性的指向・性自認と就業状況

性的指向・性自認のあり方	全調査回答者 (n=4,285) のうち 「仕事を持ち、働いている」回答者の割合	
	出生時性別：女性	出生時性別：男性
異性愛者 (基準カテゴリ)	75.4%	89.2%
非異性愛者= セクシュアル・マイノリティ	72.7%	83.7%
シスジェンダー (基準カテゴリ)	75.4%	88.9%
トランスジェンダー= ジェンダー・マイノリティ	65.0%	58.3%

さらなる調査研究の発展に向けて

- > 日本の社会調査、自治体調査における想定：
 - 調査の回答者=シスジェンダー異性愛者
→性的マイノリティの不可視化
- > 本報告の学術的意義：
 - 「見えない」存在として周縁化されてきた性的マイノリティを人口集団（population）として捉える
- > 本報告の社会的意義：
 - 性的マイノリティの生活実態を把握
 - 性的マイノリティに関する施策を行う際の基礎資料として活用
- > 今後の課題
 - 社会経済的状况に影響する他の要因を考慮に入れた分析
 - より多くの調査でSOGI設問を導入（Hiramori and Kamano 2020）
 - 性的マイノリティ内部での差異
 - 性的マイノリティの数量化に関する批判的考察

参考文献

- > Badgett, M. V. Lee. 1995. "The Wage Effects of Sexual Orientation Discrimination." *Industrial and Labor Relations Review* 48(4):726-39.
- > Badgett, M. V. Lee. 2007. "Discrimination Based on Sexual Orientation: A Review of the Literature in Economics and beyond." Pp. 19-43 in *Sexual Orientation Discrimination: An International Perspective*, edited by M. V. L. Badgett and J. Frank. New York: Routledge.
- > Barrett, Donald C., Lance M. Pollack, and Mary L. Tilden. 2002. "Teenage Sexual Orientation, Adult Openness, and Status Attainment in Gay Males." *Sociological Perspectives* 45(2):163-82
- > Black, Dan, Gary Gates, Seth Sanders, and Lowell Taylor. 2000. "Demographics of the Gay and Lesbian Population in the United States: Evidence from Available Systematic Data Sources." *Demography* 37(2):139-54.
- > Black, Dan, Gary Gates, Seth Sanders, and Lowell Taylor. 2007. "The Measurement of Same-Sex Unmarried Partner Couples in the 2000 U.S. Census." California Center for Population Research On-Line Working Paper Series, University of California, Los Angeles.
- > Hiramori, Daiki. 2018. "Social-Institutional Structures That Matter: A Quantitative Monograph of Sexual/Gender Minority Status and Earnings in Japan." SocArXiv. (<https://doi.org/10.31235/osf.io/u2rh3>)
- > Hiramori, Daiki, and Saori Kamano. 2020. "Asking about Sexual Orientation and Gender Identity in Social Surveys in Japan: Findings from the Osaka City Residents' Survey and Related Preparatory Studies." *Journal of Population Problems* 76(4):443-66. (<http://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/data/pdf/20760402.pdf>)
- > 岩本健良・平森大規・内藤忍・中野諭, 2019, 「性的マイノリティの自殺・うつによる社会的損失の試算と非当事者との収入格差に関するサーベイ」JILPTディスカッションペーパー19-05. (<https://www.jil.go.jp/institute/discussion/2019/19-05.html>)
- > Klawitter, Marieka. 2015. "Meta-Analysis of the Effects of Sexual Orientation on Earnings." *Industrial Relations: A Journal of Economy and Society* 54(1):4-32.
- > Meyer, Ilan H. 2003. "Prejudice, Social Stress, and Mental Health in Lesbian, Gay, and Bisexual Populations: Conceptual Issues and Research Evidence." *Psychological Bulletin* 129(5):674-97.
- > Meyer, Ilan H., Taylor N. T. Brown, Jody L. Herman, Sari L. Reisner, and Walter O. Bockting. 2017. "Demographic Characteristics and Health Status of Transgender Adults in Select US Regions: Behavioral Risk Factor Surveillance System." *American Journal of Public Health* 107(4):582-9.
- > Mollborn, Stefanie, and Bethany Everett. 2015. "Understanding the Educational Attainment of Sexual Minority Women and Men." *Research in Social Stratification and Mobility* 41:40-55.